

彦根市子どもの貧困対策計画 策定にかかる調査結果報告書

(確定値版)

～ 「子どもの生活に関するアンケート調査」を抜粋 ～

平成 28 年 12 月

彦 根 市

目 次

1. 彦根市 子どもの生活に関するアンケート調査	1
I. 調査の概要.....	2
II. 実施概要	2
III. 調査結果の見方	2
IV. 彦根市 子どもの生活に関するアンケート調査について	3
V. 彦根市 子どもの生活に関するアンケート調査結果のまとめ	60

1.

彦根市 子どもの生活に関するアンケート調査

I. 調査の概要

本調査は、子どもの貧困が社会問題として注目される中、すべての子どもが健やかに成長していくよう必要な方策を検討し、子育てしやすい環境づくりと一人ひとりの子どもの状況に応じた支援の整備計画を策定するため、その参考とするために実施しました。

II. 実施概要

◇調査地域：彦根市全域

◇調査対象者：彦根市立小・中学校に在籍する小学5年生、中学2年生の児童・生徒の保護者

◇調査期間：平成28年10月18日（火）～10月31日（月）

◇調査方法：学校を通じての配布・郵送回収

◇配布件数：2,103件（小学5年生：1,033件　　中学2年生：1,070件）

◇回収件数：1,202件（小学5年生：616件　　中学2年生：568件）

◇回収率：57.2%（小学5年生：59.6%　　中学2年生：53.1%）

III. 調査結果の見方

- 1 図表中の「n（number of case）」、「サンプル数」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 2 回答結果は、小数点以下第2位を四捨五入して、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 3 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、合計値が100.0%を超える場合があります。
- 4 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 5 この報告書では、問A5において「父」「母」を回答していない方を「ひとり親家庭」と定義しました。また調査結果では、「父」を回答していない方を「母子世帯」、「母」を回答していない方を「父子世帯」として表記しています。
- 6 報告書内における「剥奪指標」とは、食べ物や衣服等、人々がその社会で通常手に入れることができるものを所持できていなかったり、一般的に経験できていることが経験できなかったりする「物質的剥奪」を図るための指標であり、本報告書内では、具体的に「問D3 過去1年間にお金がなくて家族が必要とする食べ物や衣服を買えないことが1回以上あった」場合、便宜的に「剥奪指標あり」とし、経済的な困難さなどを把握するうえで参考としています。

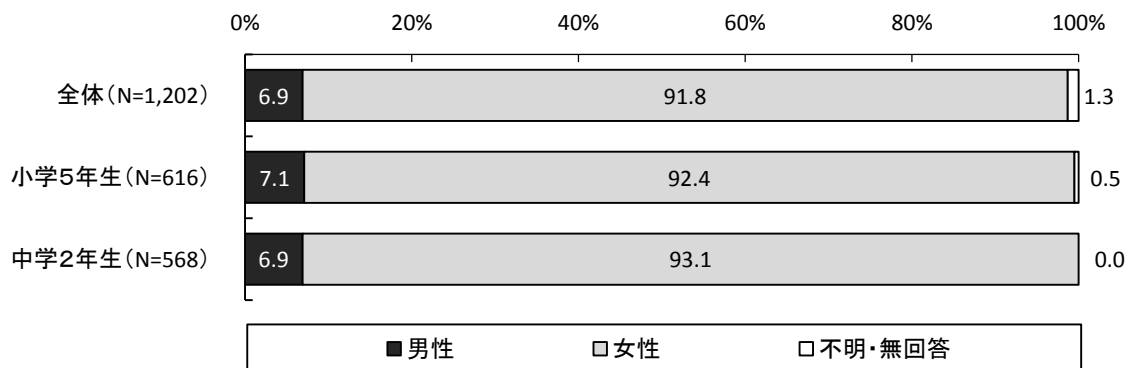
Ⅳ. 彦根市 子どもの生活に関するアンケート調査について

A アンケートに回答される方自身についてうかがいます

問 A1 あなた（アンケートに回答される方）の性別を教えてください。（1つに○）

回答者の性別は、「男性」が6.9%、「女性」が91.8%となっています。

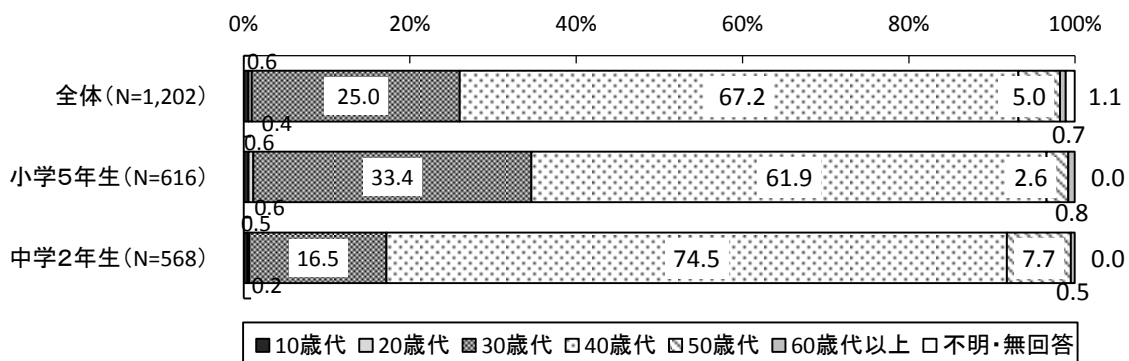
学年別をみると、[小学5年生][中学2年生]ともに「女性」が9割を超えています。



問 A2 現在のあなたの年齢をお答えください。（1つに○）

回答者の年齢は、「40 歳代」が67.2%と最も高く、次いで「30 歳代」が25.0%となっています。

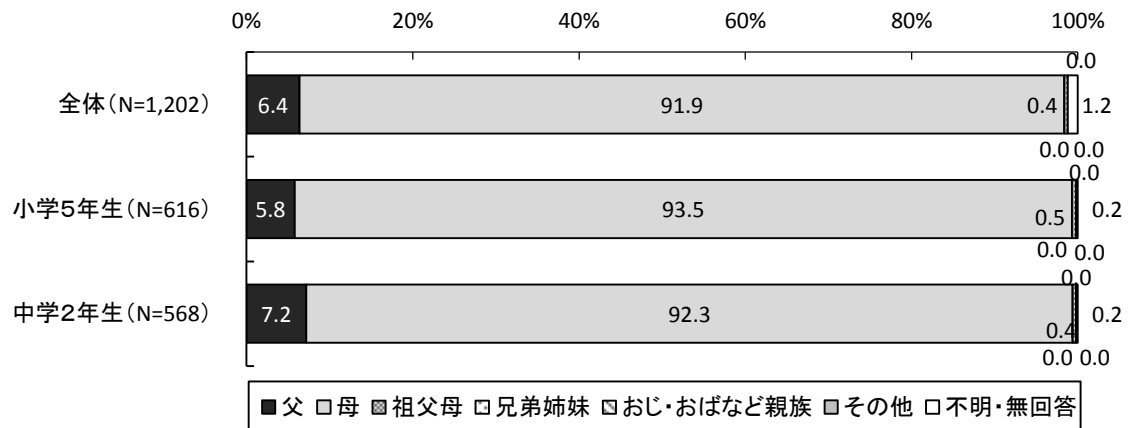
学年別をみると、「40 歳代」が[小学5年生]では61.9%、[中学2年生]では74.5%と最も高くなっています。



問 A3 お子さんからみたあなたの続柄を教えてください。(1つに○)

子どもからみた回答者の続柄をみると、「母」が91.9%となっています。

学年別をみると、「母」が小学5年生では93.5%、中学2年生では92.3%となっています。

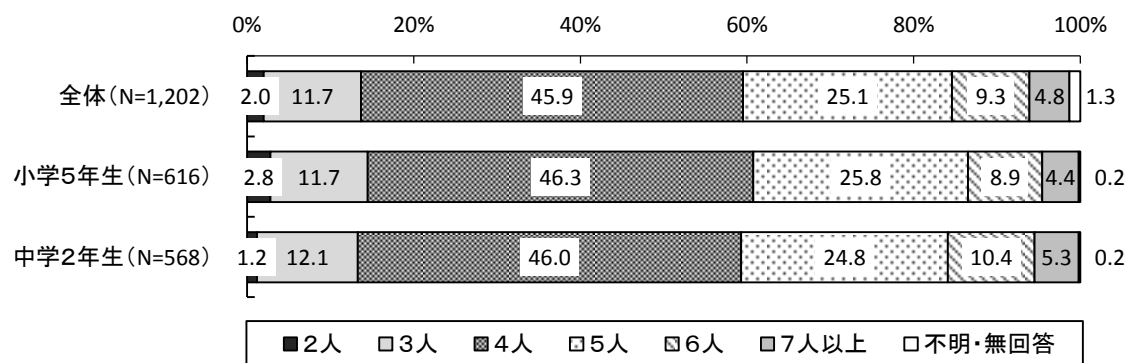


問 A4 あなたの家庭で、生活を一緒にしている人は、あなたを含めて何人ですか。(数字を記入)

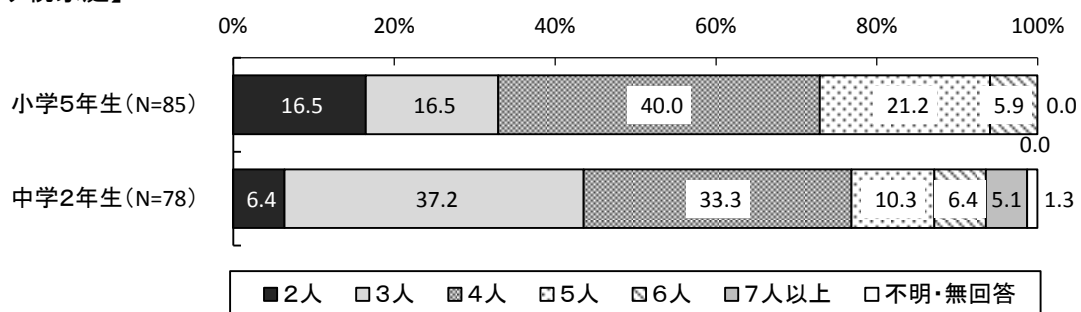
回答者の世帯人数は、「4人」が45.9%と最も高く、次いで「5人」が25.1%となっています。

学年別をみると、[小学5年生][中学2年生]ともに「4人」が最も高くなっています。

ひとり親家庭をみると、[小学5年生]では「2人」、「3人」が16.5%、[中学2年生]では「2人」が6.4%、「3人」が37.2%となっています。



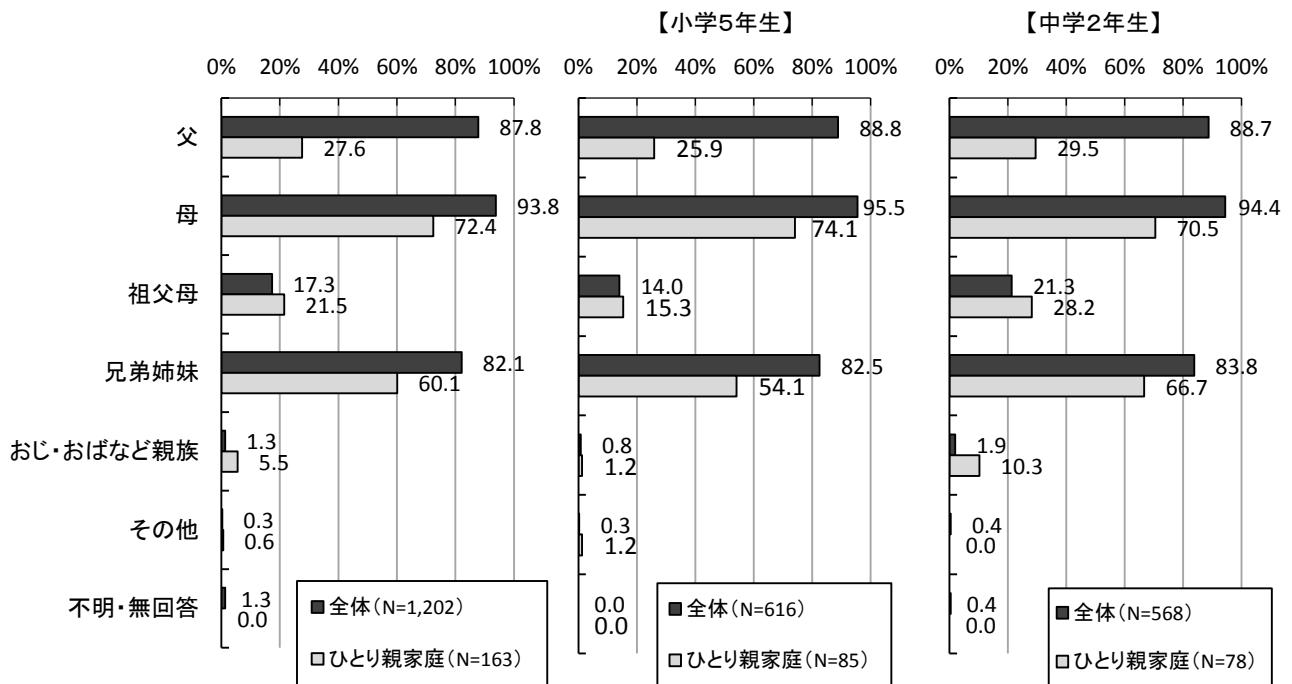
【ひとり親家庭】



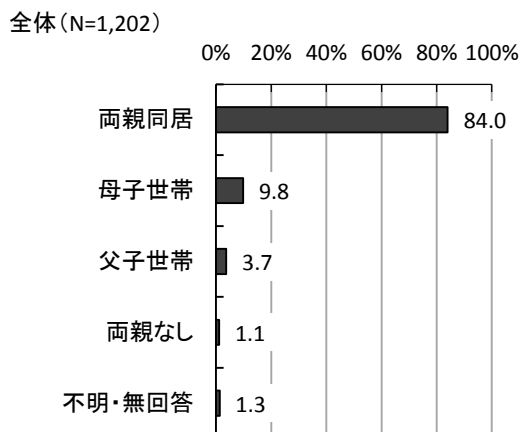
問 A5 生活を一緒にしている方全員について、お子さんからみた続柄を教えてください。
(あてはまる番号すべてに○)

子どもからみた同居者の続柄をみると、「母」が93.8%と最も高く、次いで「父」が87.8%となっています。ひとり親家庭をみると、[小学5年生][中学2年生]ともに、全体と比べて「祖父母」との同居の割合が高い一方で、「兄弟姉妹」との同居の割合は低くなっています。

また、両親が同居しているかについては、「両親同居」が84.0%、「母子世帯」が9.8%、「父子世帯」が3.7%となっています。



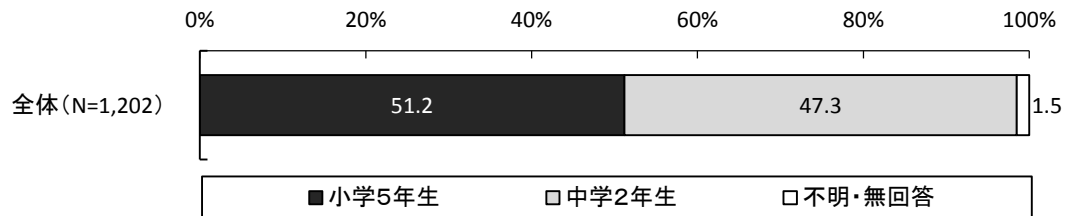
【全体】両親が同居しているか（再集計）



B お子さんについてうかがいます

問 B1 お子さんの現在の学年を教えてください。(1つに○)

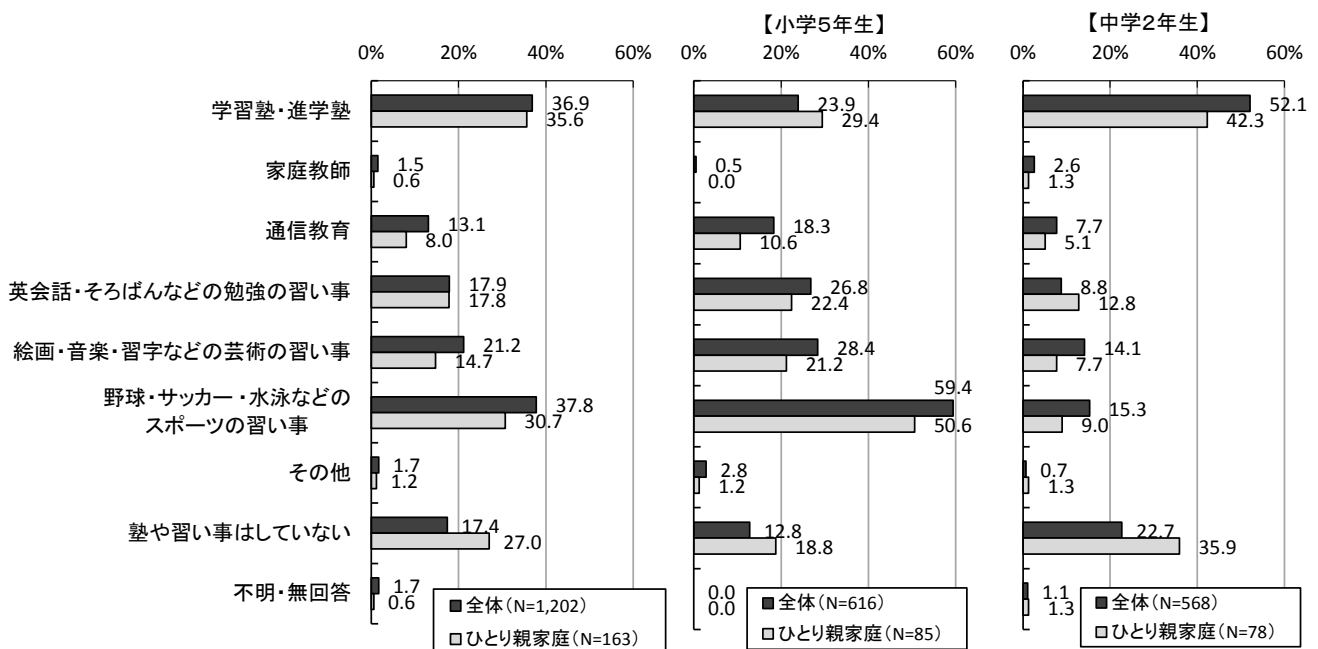
子どもの学年をみると、全体では「小学5年生」が51.2%、「中学2年生」が47.3%となっています。



問 B2 お子さんは、現在、塾に行ったり、習い事をしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

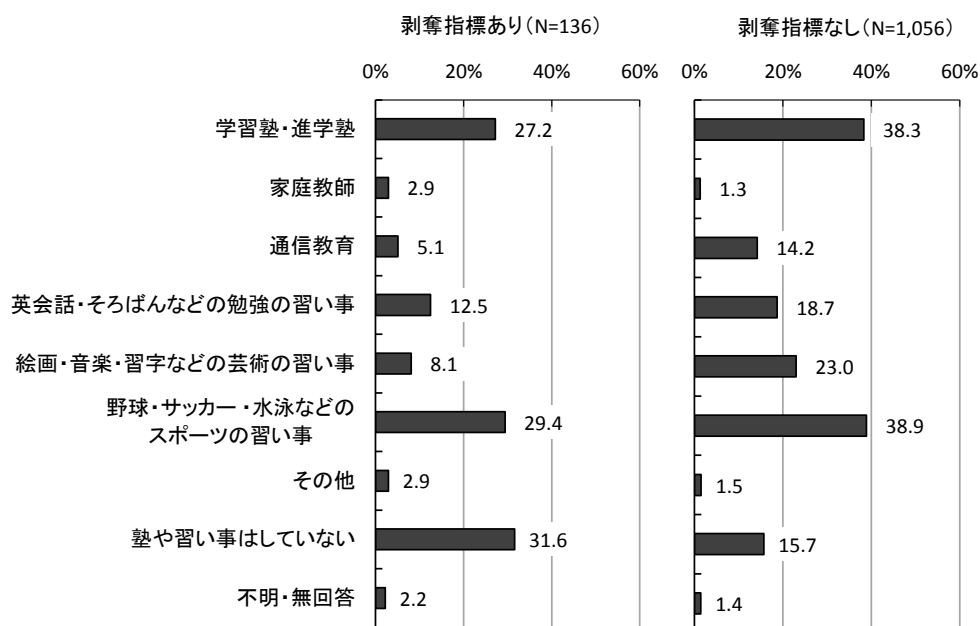
子どもの習い事の状態をみると、「野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事」が37.8%と最も高く、次いで「学習塾・進学塾」が36.9%となっています。

ひとり親家庭をみると、[小学5年生]では、全体と比べて「学習塾・進学塾」の割合が高い一方、「塾や習い事をしていない」割合も高くなっています。[中学2年生]では、全体と比べて「学習塾・進学塾」の割合が低く、「塾や習い事をしていない」は高くなっています。



【クロス集計】問 B2 × 問 D3（剥奪指標の有無別）

剥奪指標の有無別でみると、「剥奪指標あり」では「塾や習い事はしていない」、「剥奪指標なし」では「野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事」の割合が最も高くなっています。



※剥奪指標あり…問 D3「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の選択肢の統合。以下同じ。
剥奪指標なし…問 D3「なかった」の選択肢。以下同じ。

【クロス集計】問 B2 × 問 A5（両親同居別）

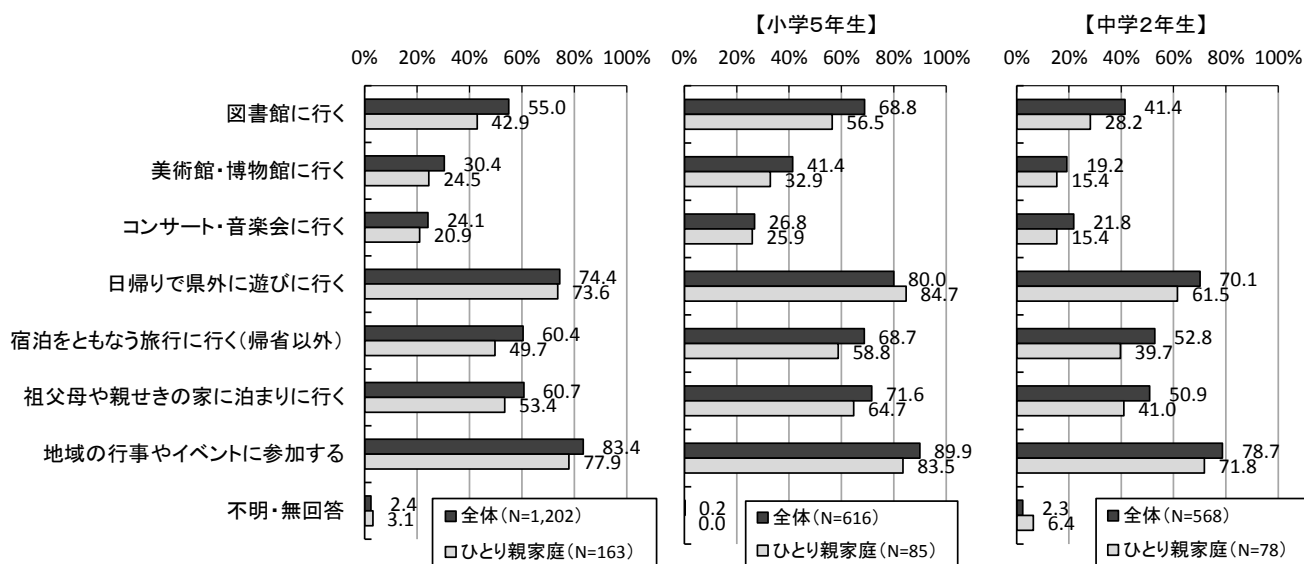
両親同居別でみると、「母子世帯」「父子世帯」「両親なし」では、「両親同居」の世帯と比べて「塾や習い事はしていない」の割合が高くなっています。また、「母子世帯」「父子世帯」「両親なし」の世帯では、「学習塾・進学塾」の割合が最も高くなっています。

上段:度数 下段:%	学習塾・進学塾	家庭教師	通信教育	英会話・そろばんなどの勉強の習い事	絵画・音楽・習字などの芸術の習い事	野球・サッカー・水泳などのスポーツの習い事	その他	塾や習い事はしていない	不明・無回答
全体(N=1,202)	444 36.9	18 1.5	157 13.1	215 17.9	255 21.2	454 37.8	21 1.7	209 17.4	21 1.7
両親同居(N=1,010)	378 37.4	16 1.6	144 14.3	184 18.2	227 22.5	402 39.8	18 1.8	162 16.0	6 0.6
母子世帯(N=118)	40 33.9	1 0.8	9 7.6	18 15.3	17 14.4	32 27.1	1 0.8	33 28.0	1 0.8
父子世帯(N=45)	18 40.0	0 0.0	4 8.9	11 24.4	7 15.6	18 40.0	1 2.2	11 24.4	0 0.0
両親なし(N=13)	7 53.8	1 7.7	0 0.0	1 7.7	3 23.1	2 15.4	1 7.7	3 23.1	0 0.0

問 B3 お子さんは、過去 1 年間に次のような体験をしましたか。(あてはまる番号すべてに○)

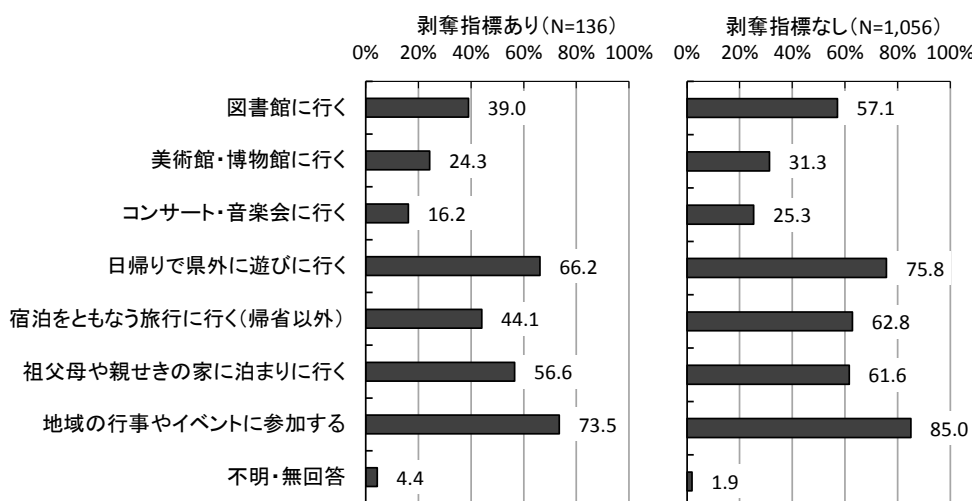
子どもが過去 1 年間に体験したことをみると、「地域の行事やイベントに参加する」が 83.4%と最も高く、次いで「日帰りで県外に遊びに行く」が 74.4%となっています。

ひとり親家庭をみると、[小学 5 年生][中学 2 年生] とともに多くの指標で全体よりも割合が低く、特に「図書館に行く」「宿泊をともなう旅行に行く」は、[小学 5 年生][中学 2 年生] とともに全体と比べて約 10 ポイントの差があります。



【クロス集計】 問 B3 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別でみると、「剥奪指標あり」は「剥奪指標なし」と比べて「図書館に行く」では 18.1 ポイント、「コンサート・音楽会に行く」では 9.1 ポイント、「宿泊をともなう旅行に行く(帰省以外)」では 18.7 ポイント低くなっています。



【クロス集計】問 B3 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別でみると、いずれの区分ともに「地域の行事やイベントに参加する」の割合が最も高くなっており、[父子世帯] では「日帰りで県外に遊びに行く」の割合も高くなっています。

上段:度数 下段:%	図書館に行く	美術館・博物館に行く	コンサート・音楽会に行く	日帰りで県外に遊びに行く
全体 (N=1,202)	661 55.0	365 30.4	290 24.1	894 74.4
両親同居 (N=1,010)	585 57.9	323 32.0	252 25.0	766 75.8
母子世帯 (N=118)	50 42.4	30 25.4	27 22.9	85 72.0
父子世帯 (N=45)	20 44.4	10 22.2	7 15.6	35 77.8
両親なし (N=13)	6 46.2	2 15.4	3 23.1	6 46.2

上段:度数 下段:%	宿泊をともなう旅行に行く (帰省以外)	祖父母や親せきの家に泊まりに行く	地域の行事やイベントに参加する	不明・無回答
全体 (N=1,202)	726 60.4	730 60.7	1003 83.4	29 2.4
両親同居 (N=1,010)	639 63.3	636 63.0	865 85.6	10 1.0
母子世帯 (N=118)	55 46.6	62 52.5	92 78.0	4 3.4
父子世帯 (N=45)	26 57.8	25 55.6	35 77.8	1 2.2
両親なし (N=13)	5 38.5	6 46.2	10 76.9	0 0.0

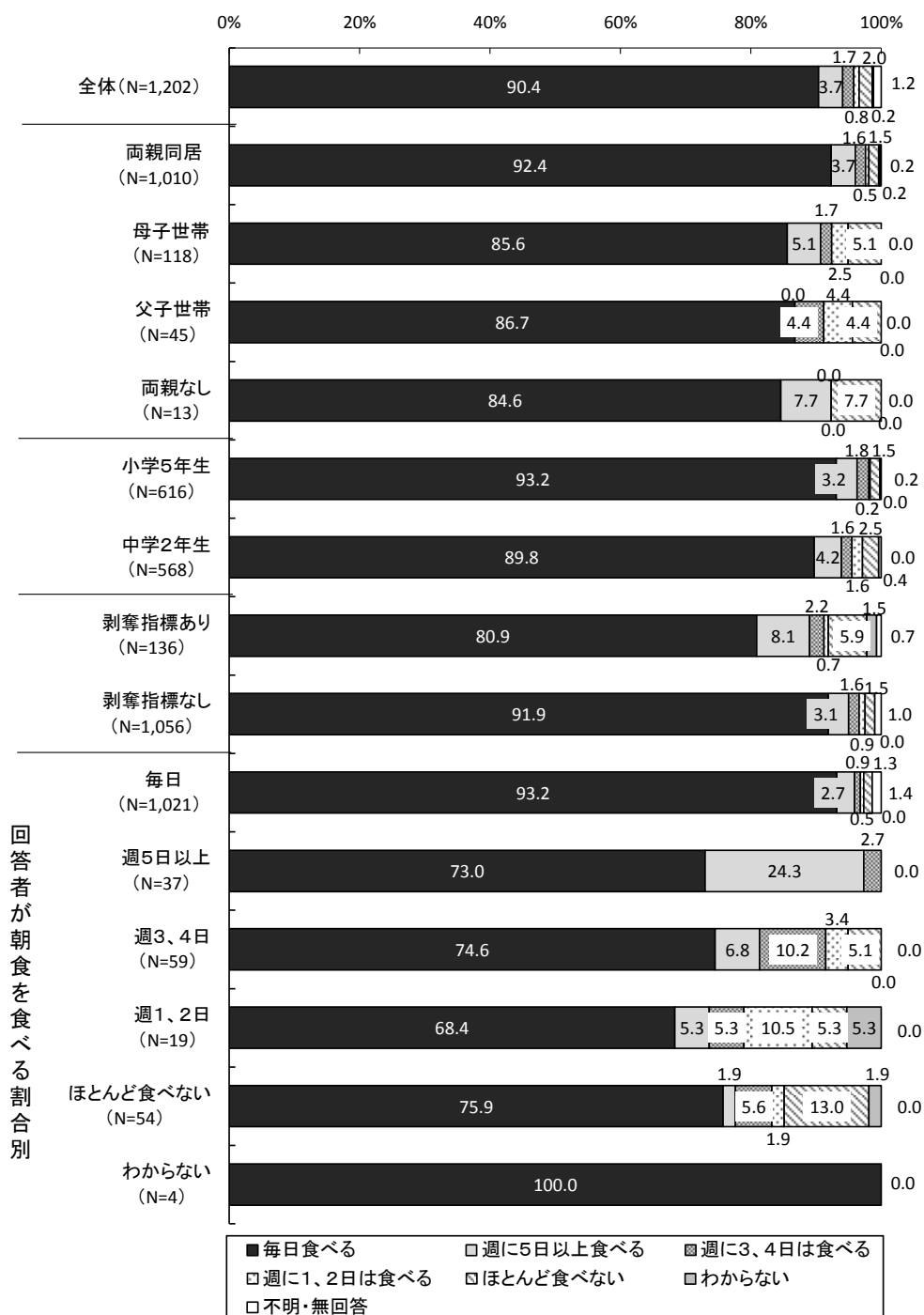
問 B4 お子さんは、1週間に朝食をどれくらい食べていますか。最近1か月間の状況で、一番近いと思うものを選んでください。(1つに○)

子どもが1週間に朝食をどのくらい食べるかをみると、「毎日食べる」の割合が90.4%と最も高くなっています。

両親同居別でみると「ほとんど食べない」の割合が[両親なし]では7.7%、[母子世帯]では5.1%、[父子世帯]では4.4%となっています。剥奪指標の有無別でみると、[剥奪指標あり]では「毎日食べる」の割合が80.9%となっており、[剥奪指標なし]と11.0ポイントの差があります。

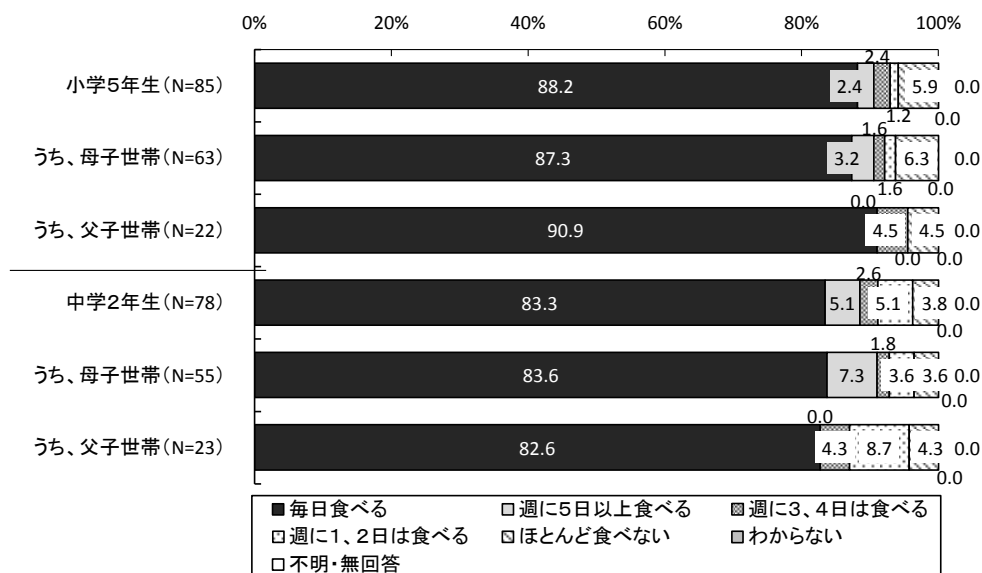
回答者が1週間に朝食を食べる割合別でみると、回答者が「ほとんど食べない」の場合、子どもの「ほとんど食べない」の割合もほかの区分と比べて高くなっています。

【全体 + クロス集計】問 B4 × 問 A5 (両親同居別)、問 B1 (学年別)、問 D3 (剥奪指標の有無別)、問 C2 (回答者が朝食を食べる割合別)



【ひとり親家庭】

ひとり親家庭をみると、[中学2年生]では[小学5年生]と比べて「毎日食べる」の割合が若干低く、また、[中学2年生]の[母子世帯]では「週に5日以上」の割合が7.3%と比較的高くなっています。



問 B4-1

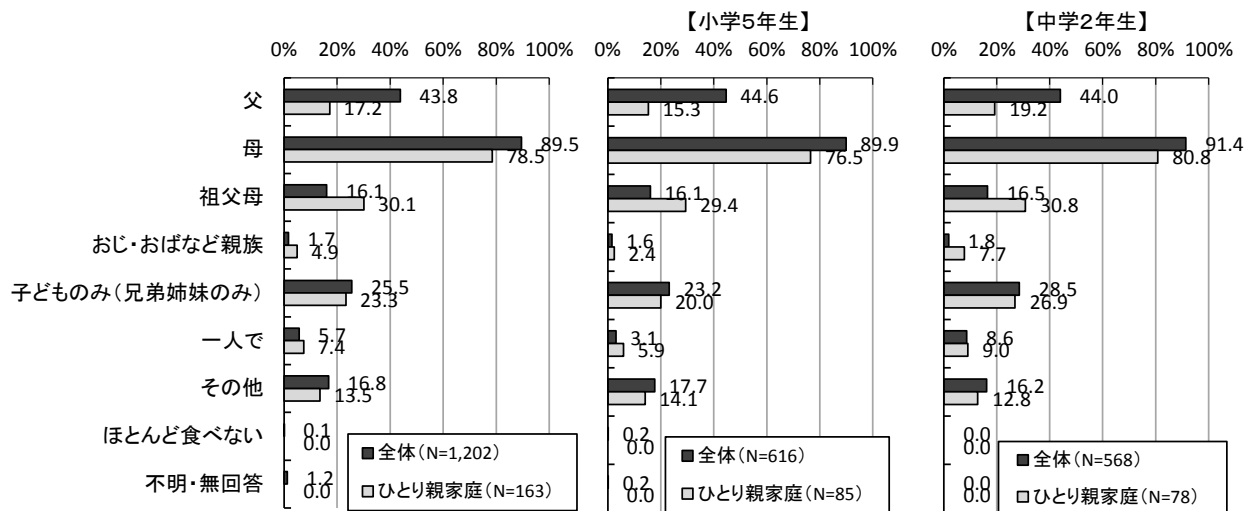
最近 3 日間の朝食のメニューを教えてください。

例 : 「パン・卵焼き・牛乳」、「ごはん・味噌汁」 など

問 B5 お子さんは、夕飯を誰と食べることが多いですか。最近1か月間の状況で、一緒に食べている方を選んでください。(あてはまる番号すべてに○)

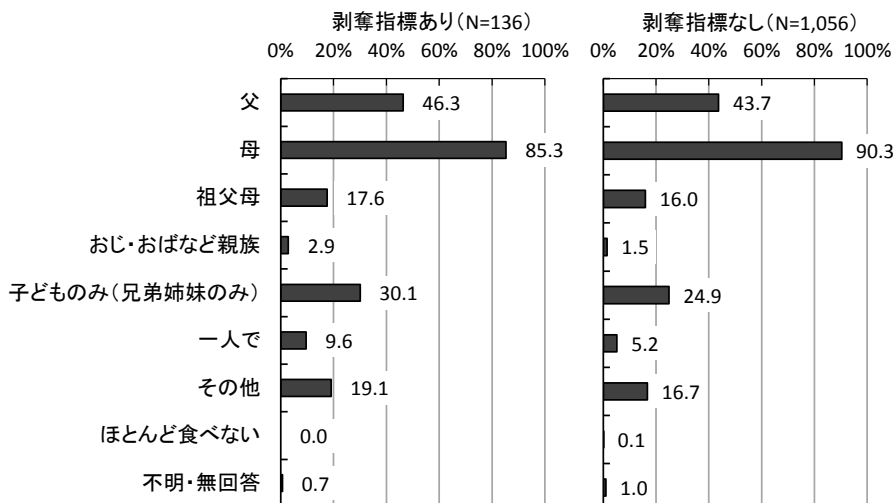
子どもが夕飯を誰と食べることが多いかをみると、「母」が89.5%と最も高く、次いで「父」が43.8%となっています。また、「子どものみ(兄弟姉妹のみ)」は25.5%、「一人で」は5.7%となっています。

ひとり親家庭をみると、[小学5年生][中学2年生]ともに「祖父母」の割合が全体より高く、また、[小学5年生]では「一人で」の割合が5.9%と全体より若干高くなっています。



【クロス集計】問 B5 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別でみると、すべての区分ともに「母」の割合が最も高く、また、[剥奪指標あり]では「子どものみ(兄弟姉妹のみ)」は30.1%、「一人で」は9.6%となっています。



【クロス集計】問 B5 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別でみると、すべての区分ともに「母」の割合が最も高くなっています。

上段:度数 下段:%	父	母	祖父母	おじ・おばなど 親族	子どものみ(兄 弟姉妹のみ)
全体(N=1,202)	526 43.8	1076 89.5	193 16.1	20 1.7	306 25.5
両親同居(N=1,010)	495 49.0	935 92.6	140 13.9	12 1.2	266 26.3
母子世帯(N=118)	7 5.9	100 84.7	35 29.7	7 5.9	25 21.2
父子世帯(N=45)	21 46.7	28 62.2	14 31.1	1 2.2	13 28.9
両親なし(N=13)	2 15.4	10 76.9	4 30.8	0 0.0	2 15.4

上段:度数 下段:%	一人で	その他	ほとんど食べな い	不明・無回答
全体(N=1,202)	69 5.7	202 16.8	1 0.1	15 1.2
両親同居(N=1,010)	57 5.6	179 17.7	1 0.1	2 0.2
母子世帯(N=118)	11 9.3	18 15.3	0 0.0	0 0.0
父子世帯(N=45)	1 2.2	4 8.9	0 0.0	0 0.0
両親なし(N=13)	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0

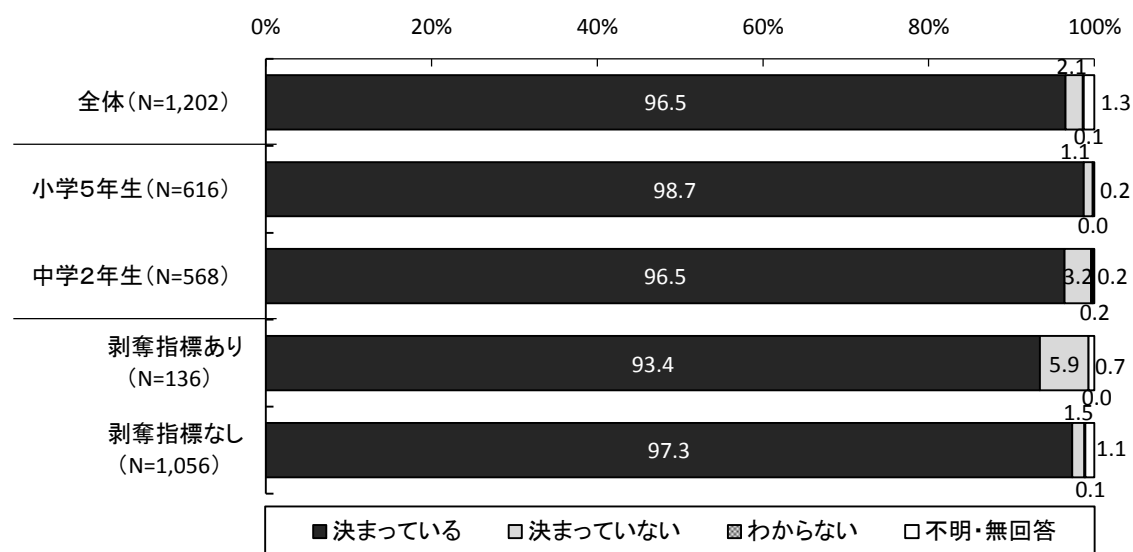
問 B6 お子さんが平日（月～金曜日）に起きる時間は、大体決まっていますか。（1つに○）

子どもの平日の起床時間をみると、「決まっている」が 96.5%となっています。

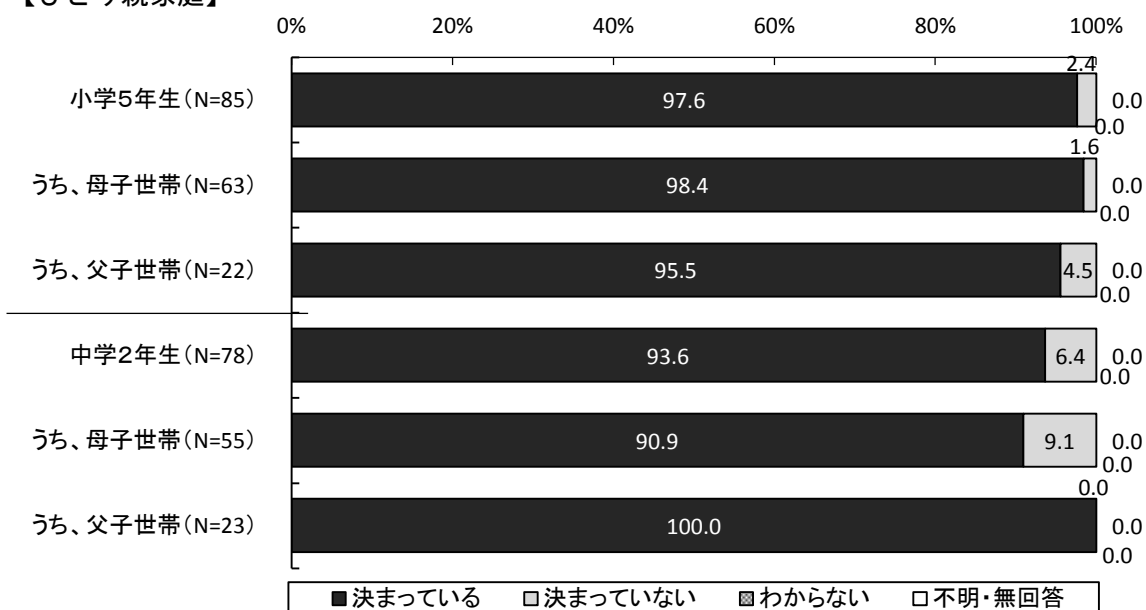
学年別でみると、「決まっている」の割合が〔小学5年生〕で 98.7%、〔中学2年生〕で 96.5%となっています。また、剥奪指標の有無別でみると、「決まっていない」の割合が〔剥奪指標あり〕では 5.9%、〔剥奪指標なし〕では 1.5%となっています。

ひとり親家庭をみると、〔中学2年生〕の〔母子家庭〕では「決まっていない」の割合が 9.1%となっています。

【全体 + クロス集計】 問 B6 × 問 B1（学年別）、問 D3（剥奪指標の有無別）



【ひとり親家庭】



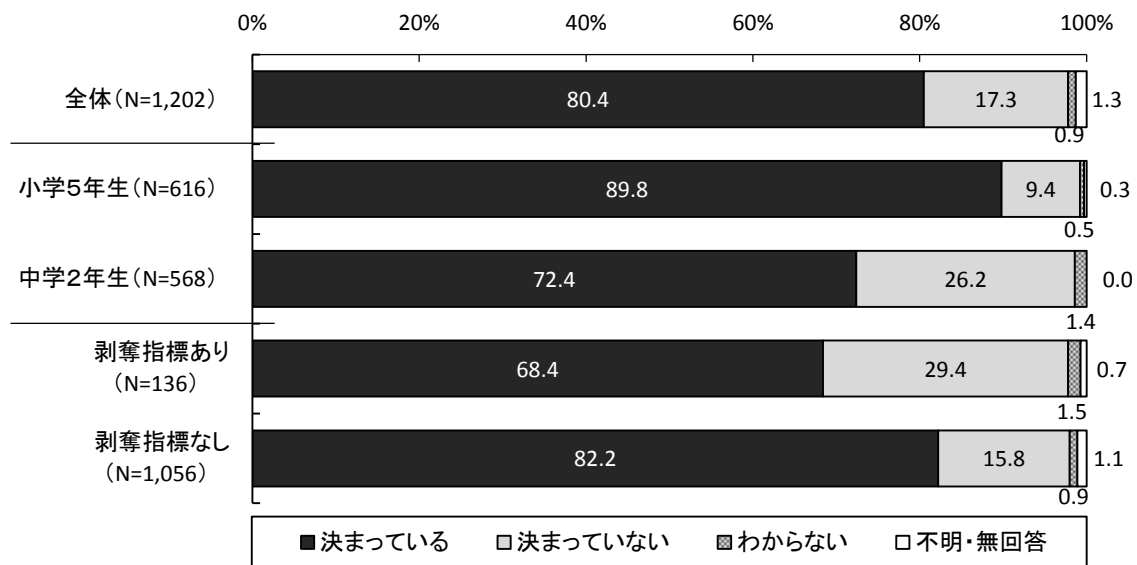
問 B7 お子さんが平日（月～金曜日）に寝る時間は、大体決まっていますか。（1つに○）

子どもの平日の就寝時間をみると、「決まっている」が 80.4%となっています。

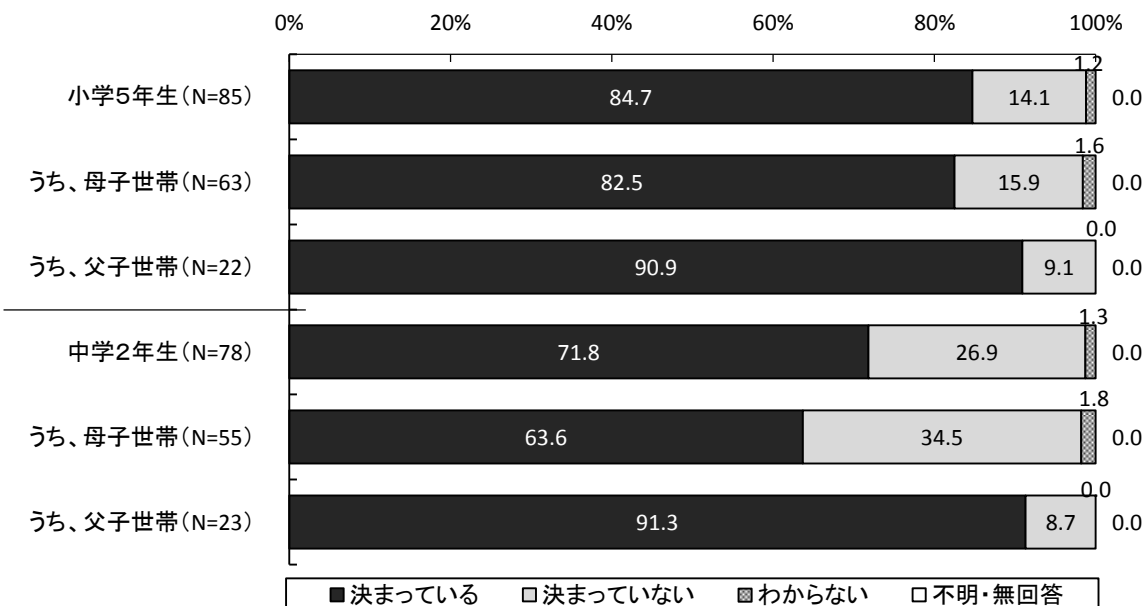
学年別をみると、「決まっている」の割合が〔小学5年生〕では 89.8%、〔中学2年生〕では 72.4%となっています。また、剥奪指標の有無別でみると、「決まっていない」の割合が〔剥奪指標あり〕では 29.4%と、〔剥奪指標なし〕と比べて高くなっています。

ひとり親家庭をみると、「決まっていない」の割合が〔小学5年生〕の〔母子家庭〕では 15.9%、〔中学2年生〕の〔母子家庭〕では 34.5%となっています。

【全体 + クロス集計】 問 B7 × 問 B1（学年別）、問 D3（剥奪指標の有無別）



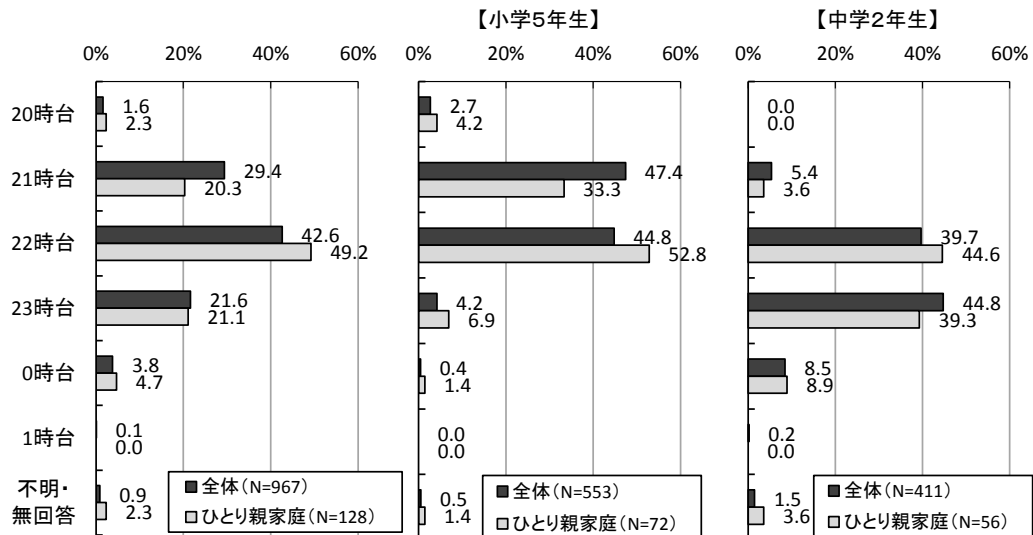
【ひとり親家庭】



問 B7-1 問 B7 で、「1 決まっている」を選んだ方にうかがいます。

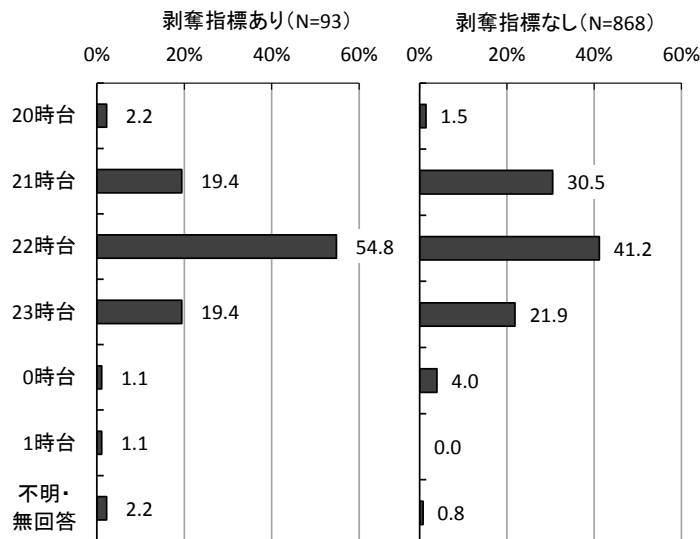
お子さんは何時ごろに寝ますか。24 時間単位でお答えください。(数字を記入)

子どもの就寝時間をみると、「22 時台」が 42.6%と最も高く、次いで「21 時台」が 29.4%となっています。ひとり親家庭をみると、[小学 5 年生] では「22 時台」以降の時間の割合が全体と比べて高くなっています。



【クロス集計】 問 B7-1 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別でみると、すべての区分ともに「22 時台」の割合が最も高く、また、[剥奪指標あり] では「21 時台」の割合が [剥奪指標なし] と比べて低くなっています。

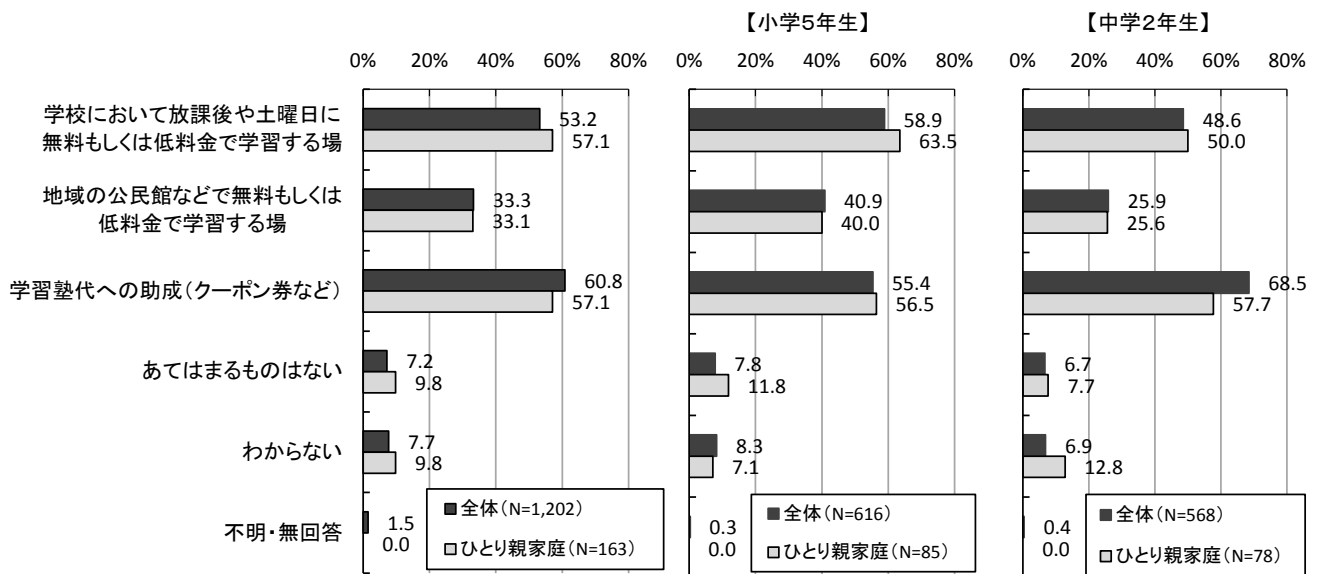


問 B8 お子さんの学習に関して、次のような事業があれば利用しますか。

(あてはまる番号すべてに○)

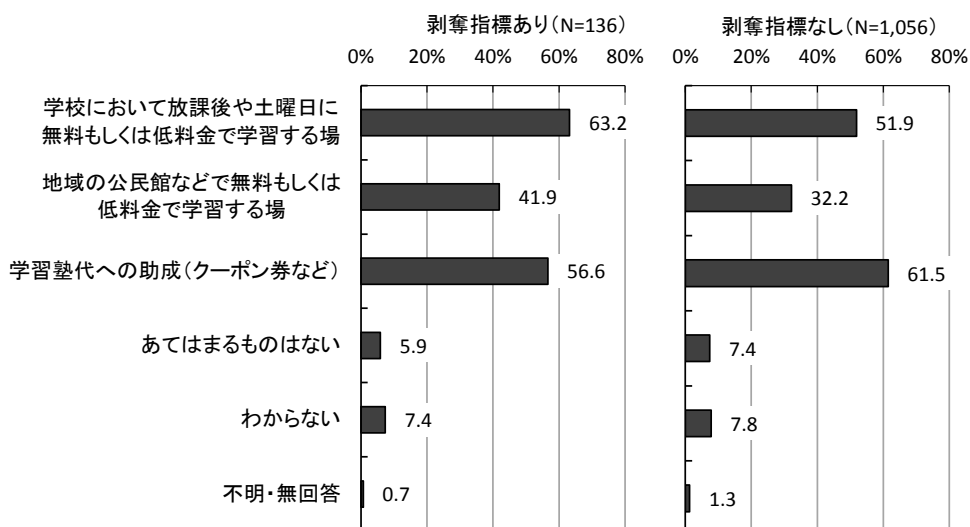
子どもの学習に関してあれば利用する事業をみると、「学習塾代への助成（クーポン券など）」が60.8%と最も高く、次いで「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」が53.2%となっています。

ひとり親家庭をみると、[小学5年生][中学2年生]ともに「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」の割合が全体より高く、[中学2年生]では「学習塾代への助成（クーポン券など）」の割合が全体より低くなっています。



【クロス集計】 問 B8 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別でみると、[剥奪指標あり]では「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」、[剥奪指標なし]では「学習塾代への助成（クーポン券など）」の割合が最も高くなっています。また、「地域の公民館などで無料もしくは低料金で学習する場」の割合について、[剥奪指標あり]と[剥奪指標なし]との間に9.7ポイントの差があります。



【クロス集計】問 B8 × 問 A5（両親同居別）、問 C1-1（勉強できる場所の有無別）

両親同居別をみると、[父子世帯] 以外の区分では「学習塾代への助成（クーポン券など）」の割合が最も高く、[父子世帯] では「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」が最も高くなっています。

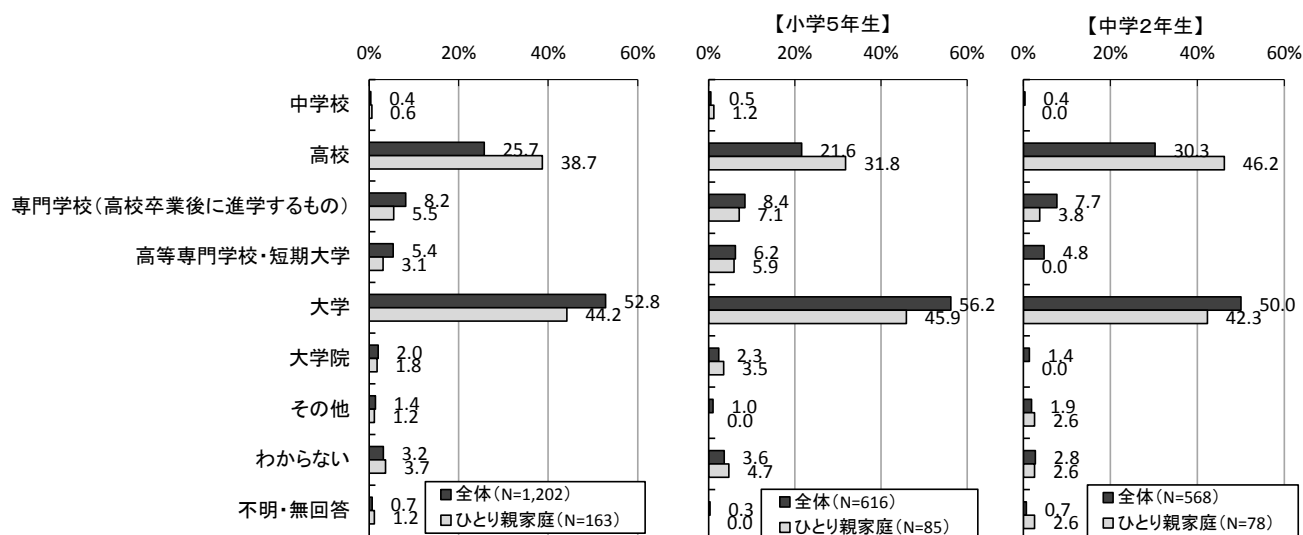
勉強できる場所の有無別をみると、勉強できる場所が「ある」という回答者では「学習塾代への助成（クーポン券など）」、勉強できる場所が「ない」という回答者では「学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場」の割合が最も高くなっています。

上段:度数 下段:%	学校において放課後や土曜日に無料もしくは低料金で学習する場	地域の公民館などで無料もしくは低料金で学習する場	学習塾代への助成(クーポン券など)	あてはまるものはない	わからない	不明・無回答
全体(N=1,202)	640 53.2	400 33.3	731 60.8	86 7.2	92 7.7	18 1.5
両親同居(N=1,010)	542 53.7	342 33.9	629 62.3	69 6.8	75 7.4	4 0.4
母子世帯(N=118)	69 58.5	41 34.7	71 60.2	12 10.2	10 8.5	0 0.0
父子世帯(N=45)	24 53.3	13 28.9	22 48.9	4 8.9	6 13.3	0 0.0
両親なし(N=13)	4 30.8	3 23.1	7 53.8	1 7.7	0 0.0	1 7.7
ある(N=1114)	593 53.2	375 33.7	688 61.8	75 6.7	85 7.6	17 1.5
ない(N=75)	43 56.6	21 27.6	39 51.3	9 11.8	6 7.9	0 0.0

問 B9 お子さんについて、どの学校まで卒業してほしいと思いますか。(1つに○)

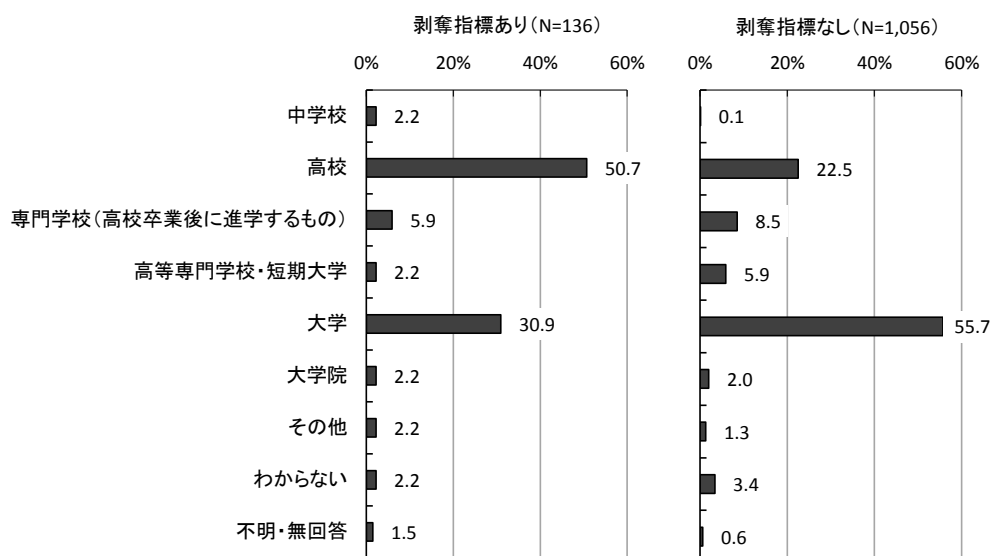
子どもに望む最終学歴をみると、「大学」が52.8%と最も高く、次いで「高校」が25.7%となっています。

ひとり親家庭をみると、[小学5年生]では「大学」、[中学2年生]では「高校」の割合が最も高くなっています。また、[小学5年生][中学2年生]ともに、全体と比べて「高校」の割合が高く、「大学」の割合は低くなっています。



【クロス集計】 問 B9 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別でみると、[剥奪指標あり]では「高校」、[剥奪指標なし]では「大学」の割合が最も高くなっています。



【クロス集計】問 B9 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別をみると、[母子世帯] では「高校」の割合が最も高くなっています。

上段:度数 下段:%	中学校	高校	専門学校(高 校卒業後に 進学するも の)	高等専門学 校・短期大学	大学
全体(N=1,202)	5 0.4	309 25.7	99 8.2	65 5.4	635 52.8
両親同居(N=1,010)	4 0.4	240 23.8	84 8.3	59 5.8	553 54.8
母子世帯(N=118)	1 0.8	55 46.6	4 3.4	1 0.8	49 41.5
父子世帯(N=45)	0 0.0	8 17.8	5 11.1	4 8.9	23 51.1
両親なし(N=13)	0 0.0	4 30.8	2 15.4	1 7.7	4 30.8

上段:度数 下段:%	大学院	その他	わからない	不明・無回答
全体(N=1,202)	24 2.0	17 1.4	39 3.2	9 0.7
両親同居(N=1,010)	18 1.8	15 1.5	32 3.2	5 0.5
母子世帯(N=118)	1 0.8	1 0.8	4 3.4	2 1.7
父子世帯(N=45)	2 4.4	1 2.2	2 4.4	0 0.0
両親なし(N=13)	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0

C 世帯の状況について

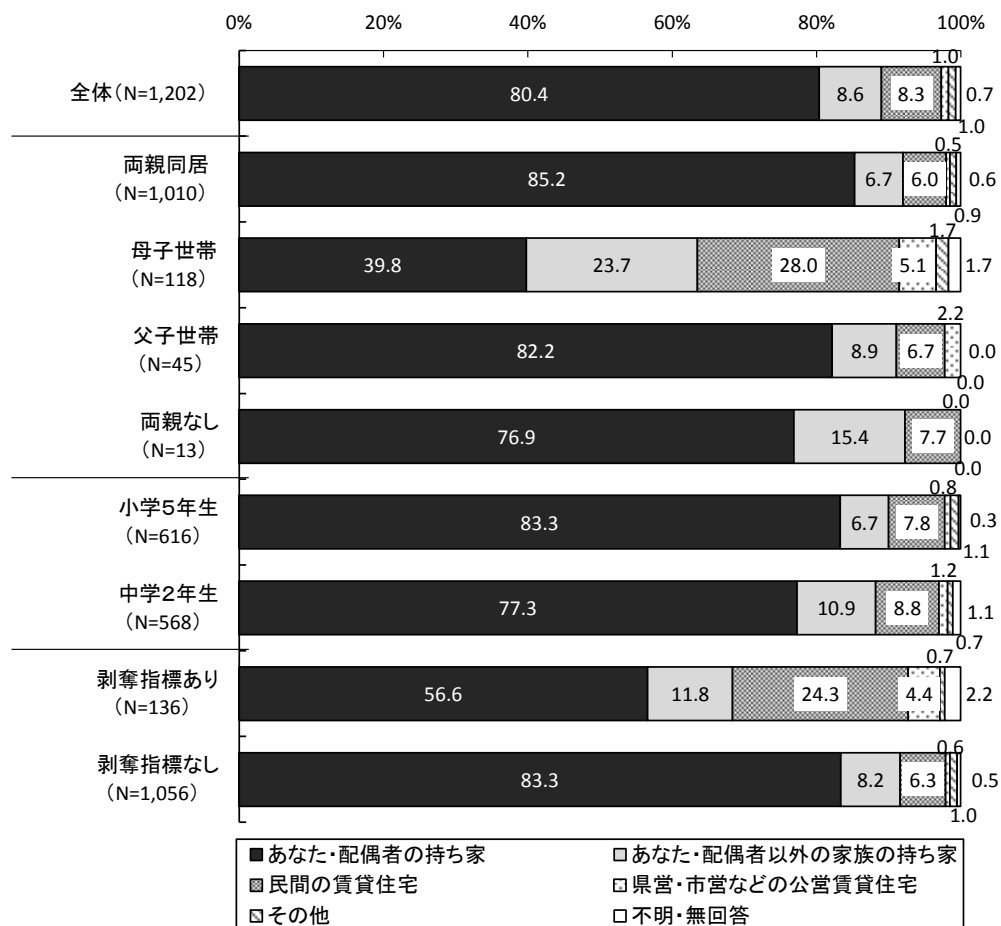
問 C1 現在のお住まいの状況について教えてください。(1つに○)

現在の居住状況をみると、「あなた・配偶者の持ち家」が 80.4%と最も高く、次いで「あなた・配偶者以外の家族の持ち家」が 8.6%となっています。

両親同居別をみると、[母子世帯]では、「あなた・配偶者の持ち家」は 39.8%、「民間の賃貸住宅」は 28.0%となっています。

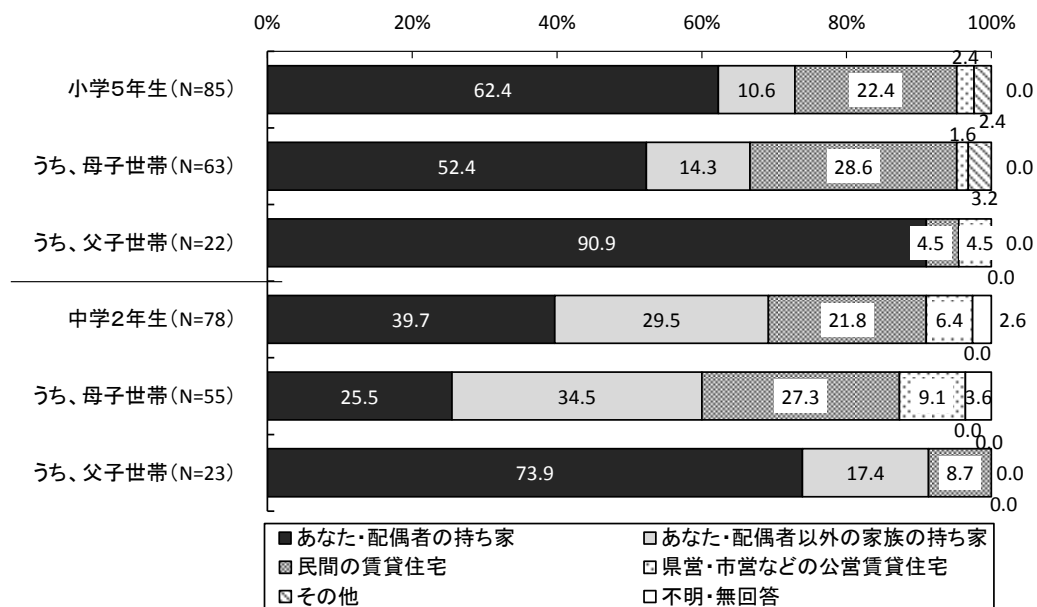
剥奪指標の有無別をみると、「あなた・配偶者の持ち家」は、[剥奪指標あり]では 56.6%、[剥奪指標なし]では 83.3%となっています。また、「民間の賃貸住宅」は[剥奪指標あり]では 24.3%、[剥奪指標なし]では 6.3%となっています。

【全体 + クロス集計】問 C1 × 問 A5 (両親同居別)、問 B1 (学年別)、問 D3 (剥奪指標の有無別)



【ひとり親家庭】

ひとり親家庭をみると、[中学2年生]では[小学5年生]と比べて「あなた・配偶者の持ち家」の割合が低くなっており、特に[中学2年生]の[母子世帯]では「あなた・配偶者の持ち家」の割合が25.5%となっています。

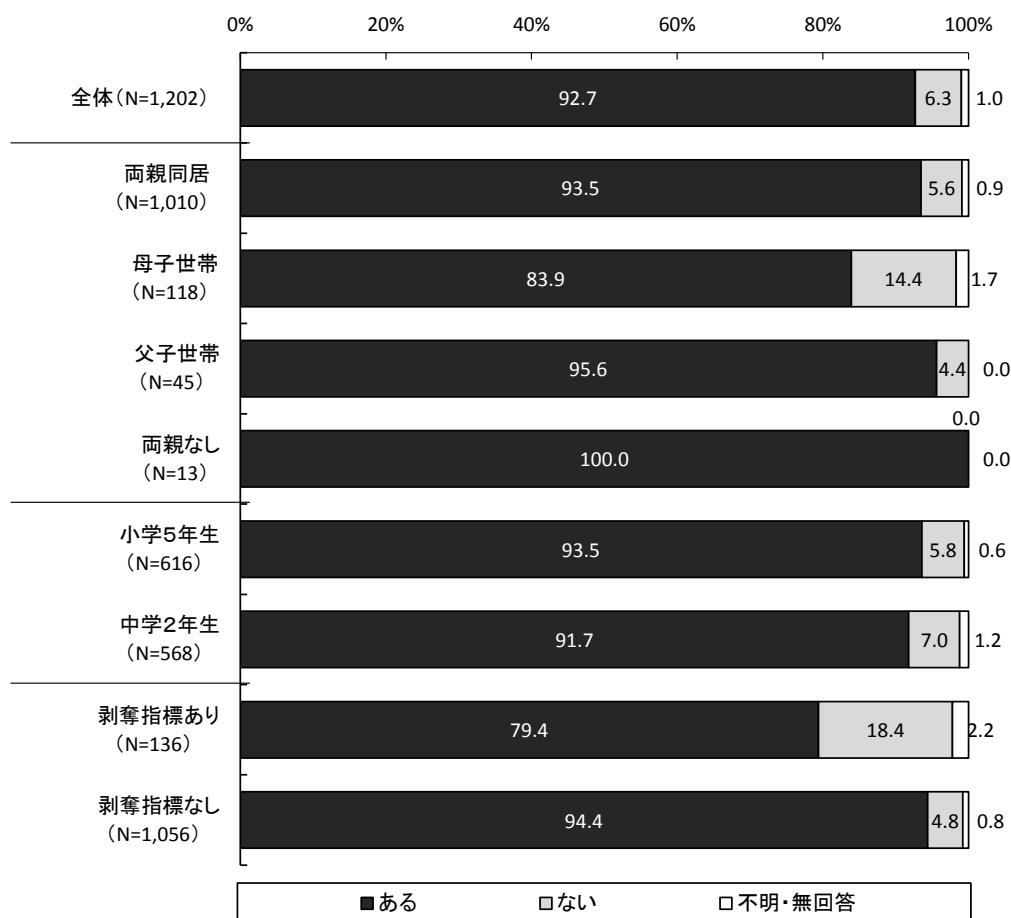


問 C1-1 現在の住居には、お子さんが落ち着いて宿題などができる場所がありますか。
(1つに○)

現在の住居に、子どもが落ち着いて勉強できる場所があるかについてみると、「ある」が92.7%となっています。

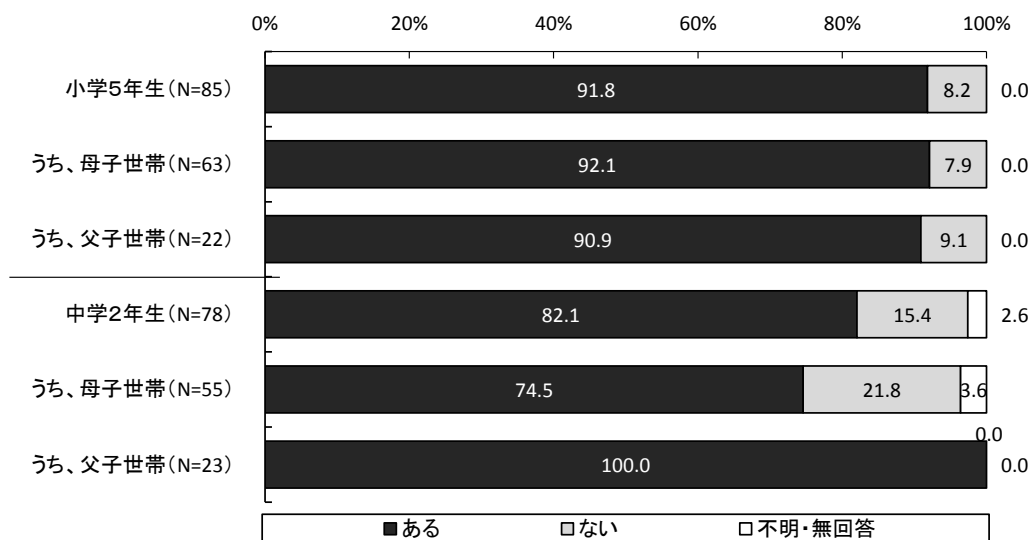
両親同居別をみると、[母子世帯]では「ない」の割合が14.4%で、他の区分に比べて高くなっています。剥奪指標の有無別をみると、「ない」の割合について、[剥奪指標あり]は18.4%、[剥奪指標なし]は4.8%となっています。

【全体 + クロス集計】問 C1-1 × 問 A5 (両親同居別)、問 B1 (学年別)、問 D3 (剥奪指標の有無別)



【ひとり親家庭】

ひとり親家庭をみると、「ない」の割合について、[小学5年生]の[母子世帯]では7.9%、[中学2年生]の[母子世帯]では21.8%となっています。

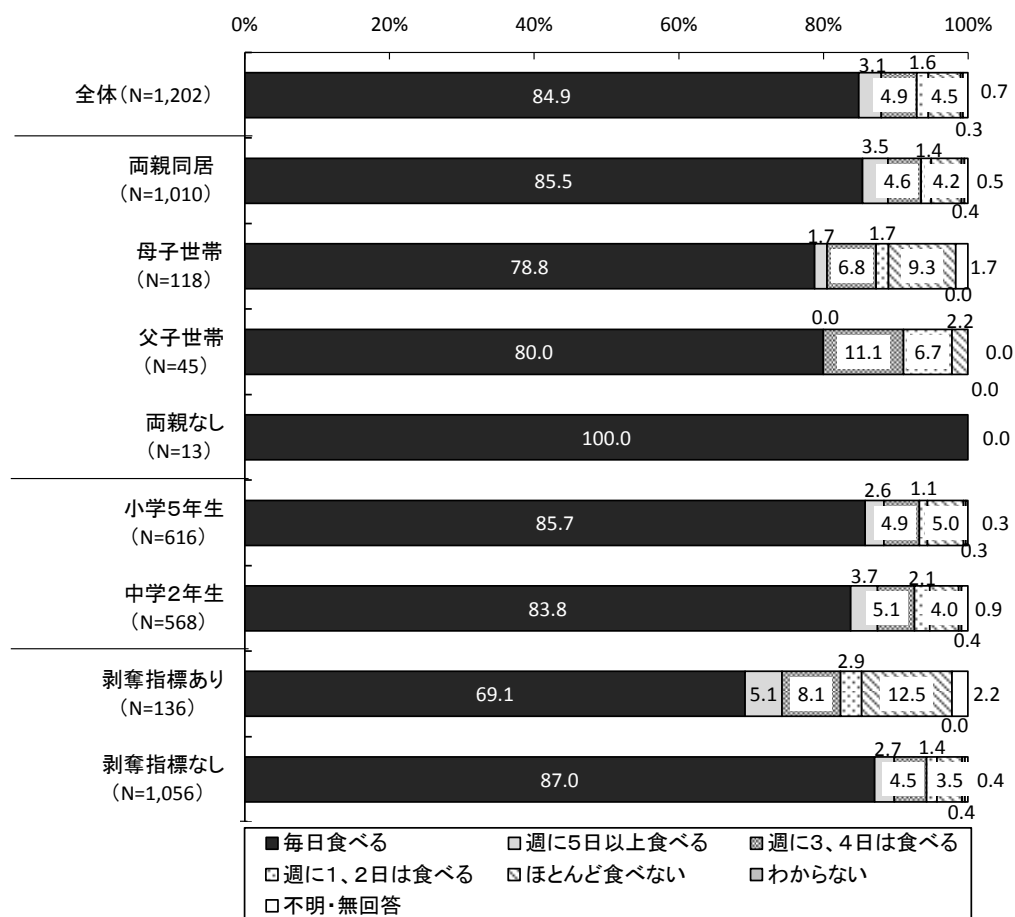


問 C2 あなたは、1週間に朝食をどれくらい食べていますか。最近1か月間の状況で、一番近いと思うものを選んでください。(1つに○)

回答者が1週間に朝食をどれくらい食べるかをみると、「毎日食べる」の割合が84.9%と最も高くなっています。

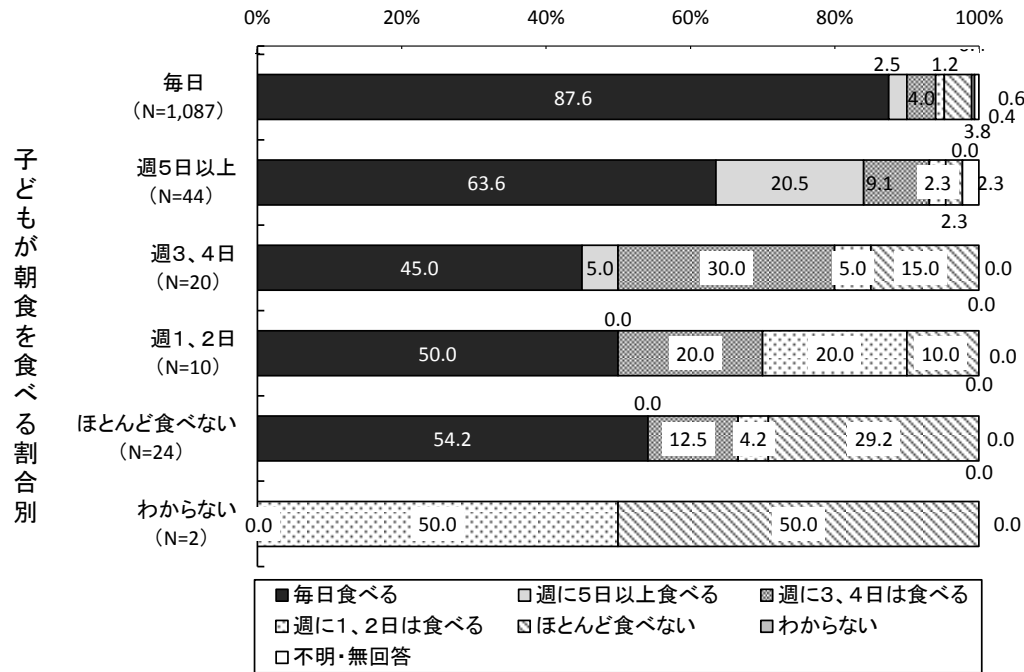
両親同居別でみると、各区分ともに「毎日食べる」の割合が最も高くなっていますが、[母子世帯]では「ほとんど食べない」の割合が9.3%と、他の区分に比べ高くなっています。学年別でみると、[小学5年生][中学2年生]ともに「毎日食べる」の割合が最も高くなっています。剥奪指標の有無別でみると、各区分ともに「毎日食べる」の割合が最も高くなっていますが、[剥奪指標あり]では69.1%、[剥奪指標なし]では87.0%となっており、17.9ポイントの差があります。また、[剥奪指標あり]では「ほとんど食べない」の割合が12.5%となっています。

【全体 + クロス集計】問 C2 × 問 A5 (両親同居別)、問 B1 (学年別)、問 D3 (剥奪指標の有無別)



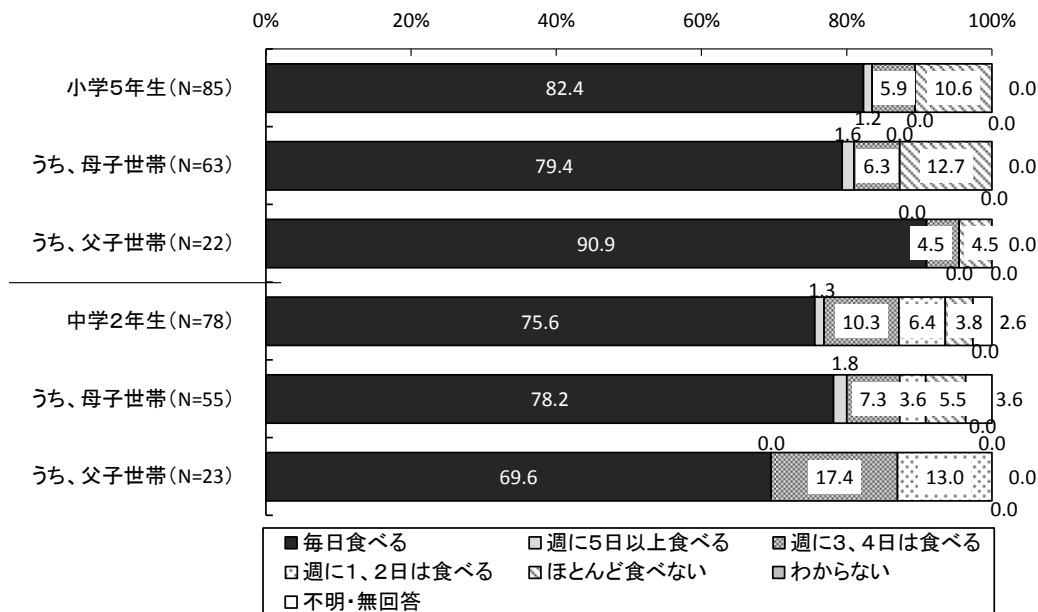
子どもが1週間に朝食を食べる割合別でみると、子どもが「ほとんど食べない」場合、回答者の「ほとんど食べない」割合が29.2%と、他の区分に比べ高くなっています。

【全体 + クロス集計】問 C2 × 問 B4（子どもが朝食を食べる割合別）



【ひとり親家庭】

ひとり親家庭をみると、[小学5年生]、[中学2年生] とともに「毎日食べる」の割合が全体と比べて低く、小学5年生では82.4%、中学2年生では75.6%となっています。



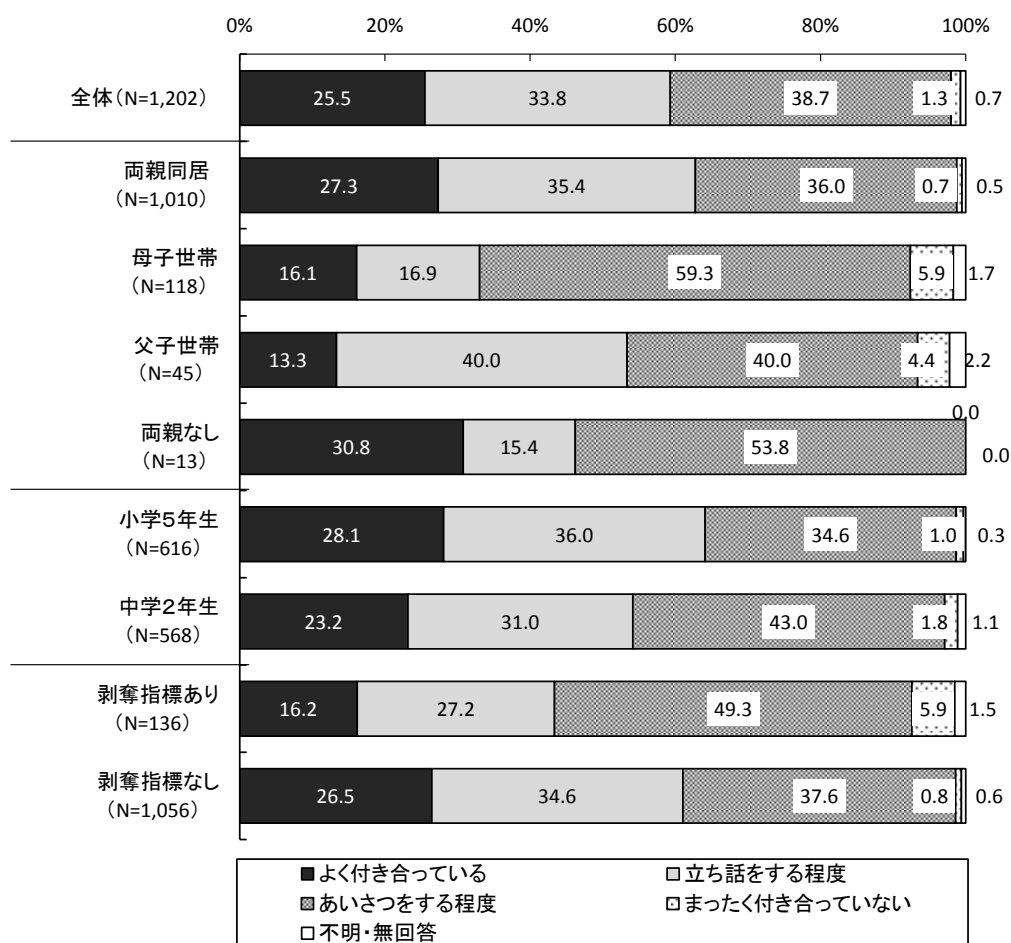
問 C3 あなたは、地域での付き合いをどの程度していますか。(1つに○)

地域での付き合いの程度をみると、「あいさつをする程度」が 38.7%と最も高く、次いで「立ち話をする程度」が 33.8%となっています。

家族同居別をみると、[父子世帯][母子世帯]では「よく付き合っている」の割合が他の区分と比べて低くなっています。また、「まったく付き合っていない」の割合が[母子世帯]は 5.9%、[父子世帯]は 4.4%と、他の区分と比べて若干高くなっています。

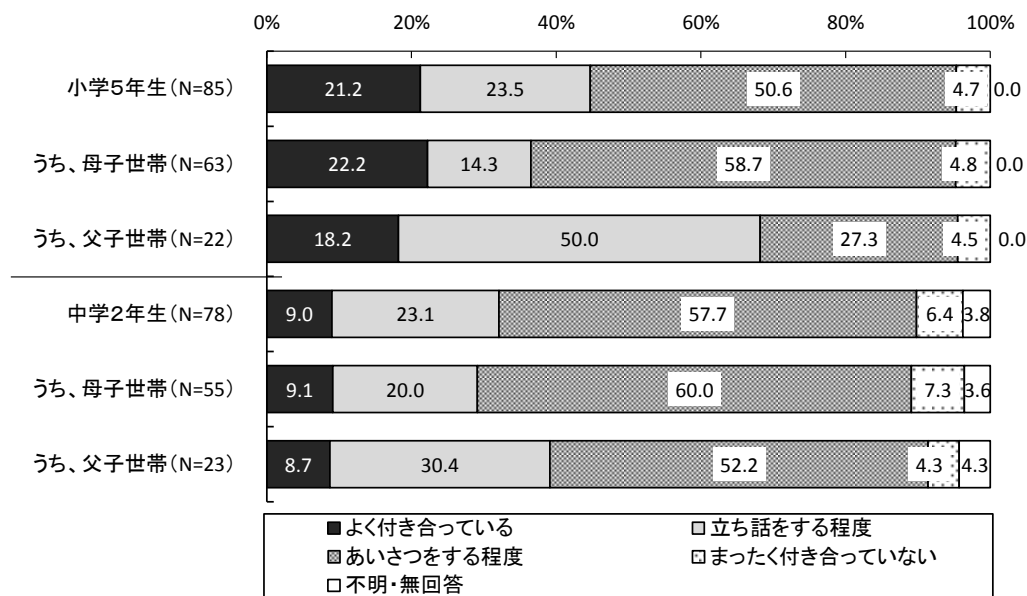
剥奪指標の有無別をみると、「よく付き合っている」の割合は[剥奪指標あり]では 16.2%、[剥奪指標なし]では 26.5%となっており、10.3 ポイントの差があります。

【全体 + クロス集計】問 C3 × 問 A5 (両親同居別)、問 B1 (学年別)、問 D3 (剥奪指標の有無別)



【ひとり親家庭】

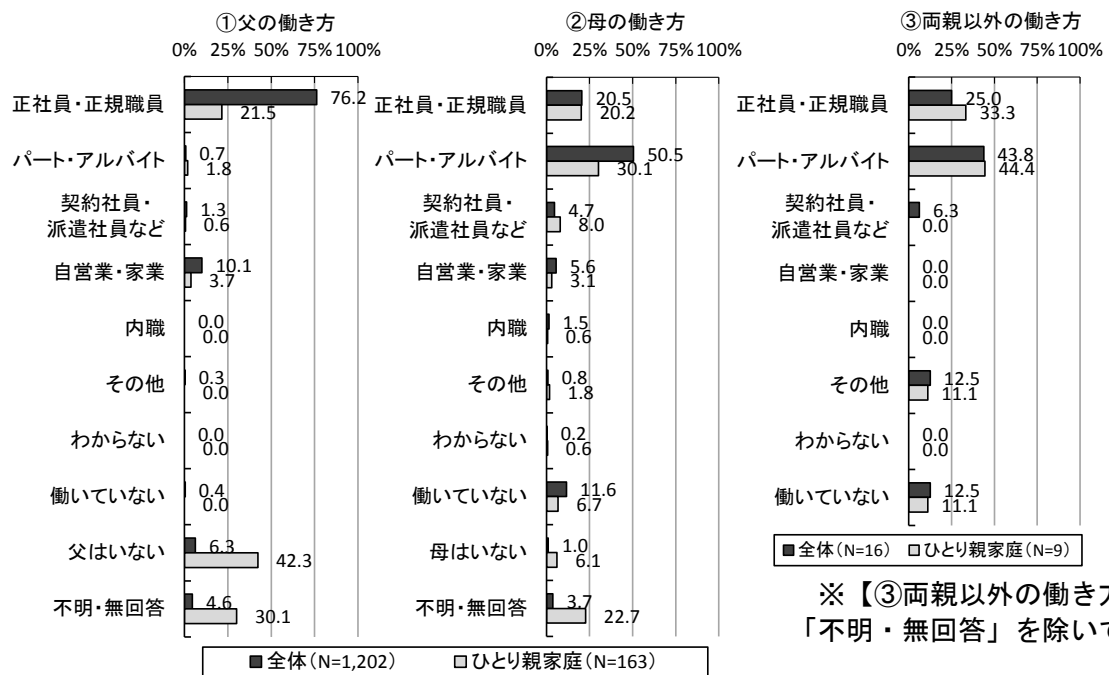
ひとり親家庭をみると、[母子世帯]では、[小学5年生][中学2年生]ともに「あいさつをする程度」の割合が最も高くなっています。また、「よく付き合っている」の割合は、小学5年生では21.2%、中学2年生では9.0%となっており、12.2ポイントの差があります。



問 C4 お子さんのお父さん・お母さんの働き方を、それぞれお答えください。今後復帰予定の方は、予定されている働き方をお答えください。(①②それぞれについて、1つに○)
お父さん・お母さんがいない場合は、主に子育てをされている方の働き方を③にお答えください。(お子さんとの続柄を()に記入してください。)

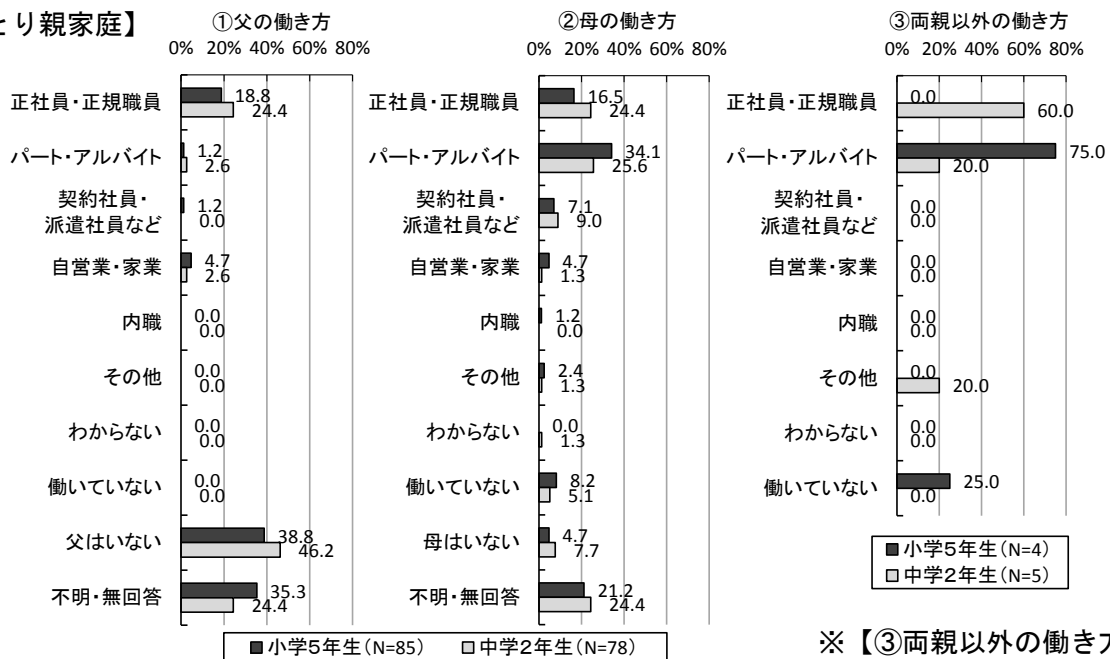
子どもの保護者の働き方をみると、【①父の働き方】においては「正社員・正規職員」が76.2%、【②母の働き方】、【③両親以外の働き方】においては、ともに「パート・アルバイト」がそれぞれ最も高くなっています。

ひとり親家庭をみると、【①父の働き方】において、[小学5年生][中学2年生]ともに「正社員・正規職員」の割合が全体と比べて低く、[小学5年生]では18.8%となっています。



※【③両親以外の働き方】は「不明・無回答」を除いて表示

【ひとり親家庭】



※【③両親以外の働き方】は「不明・無回答」を除いて表示

【クロス集計】問 C4 × 問 A5（両親同居別）、問 B1（学年別）、問 D3（剥奪指標の有無別）

【①父の働き方】において、両親同居別、学年別、剥奪指標の有無別でみると、[母子世帯][両親なし]を除くすべての区分で「正社員・正規職員」の割合が最も高くなっています。また、剥奪指標の有無別でみると、「正社員・正規職員」は[剥奪指標あり]では54.4%、[剥奪指標なし]では79.2%となっており、24.8ポイントの差があります。

【②母の働き方】において、両親同居別、学年別、剥奪指標の有無別でみると、[父子家庭]を除くすべての区分で「パート・アルバイト」の割合が最も高くなっています。また、[剥奪指標あり]では「働いていない」の割合が15.4%となっており、他の区分と比べて高くなっています。

	上段:度数 下段:%	正社員・ 正規職員	パート・ア ルバイト	契約社 員・派遣 社員など	自営業・ 家業	内職	その他	わからな い	働いてい ない	父または 母はいな い	不明・無 回答
① 父の働き方	両親同居 (N=1,010)	862 85.3	5 0.5	15 1.5	114 11.3	0 0.0	4 0.4	0 0.0	5 0.5	0 0.0	5 0.5
	母子世帯 (N=118)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	69 58.5	49 41.5
	父子世帯 (N=45)	35 77.8	3 6.7	1 2.2	6 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	両親なし (N=13)	6 46.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 53.8	0 0.0
	小学5年生 (N=616)	465 75.5	4 0.6	8 1.3	67 10.9	0 0.0	1 0.2	0 0.0	2 0.3	36 5.8	33 5.4
	中学2年生 (N=568)	436 76.8	4 0.7	8 1.4	53 9.3	0 0.0	3 0.5	0 0.0	3 0.5	40 7.0	21 3.7
	剥奪指標あり (N=136)	74 54.4	1 0.7	3 2.2	18 13.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.5	25 18.4	13 9.6
	剥奪指標なし (N=1,056)	836 79.2	7 0.7	13 1.2	102 9.7	0 0.0	4 0.4	0 0.0	3 0.3	50 4.7	41 3.9
② 母の働き方	両親同居 (N=1,010)	210 20.8	541 53.6	41 4.1	61 6.0	17 1.7	6 0.6	1 0.1	126 12.5	1 0.1	6 0.6
	母子世帯 (N=118)	33 28.0	49 41.5	13 11.0	5 4.2	1 0.8	3 2.5	1 0.8	11 9.3	0 0.0	2 1.7
	父子世帯 (N=45)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 22.2	35 77.8
	両親なし (N=13)	4 30.8	6 46.2	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0
	小学5年生 (N=616)	118 19.2	312 50.6	25 4.1	36 5.8	12 1.9	5 0.8	0 0.0	82 13.3	5 0.8	21 3.4
	中学2年生 (N=568)	127 22.4	283 49.8	31 5.5	31 5.5	6 1.1	4 0.7	2 0.4	56 9.9	6 1.1	22 3.9
	剥奪指標あり (N=136)	21 15.4	67 49.3	12 8.8	5 3.7	3 2.2	2 1.5	0 0.0	21 15.4	0 0.0	5 3.7
	剥奪指標なし (N=1,056)	223 21.1	535 50.7	44 4.2	61 5.8	15 1.4	8 0.8	2 0.2	118 11.2	12 1.1	38 3.6

※ [母子世帯] または [父子世帯] の方が「父または母はいない」以外の選択肢を回答している場合、子どもや回答者と同居はしていないものの、回答者が子どもの父親や母親の現在の職業等を把握していると思われる。

【③両親以外の働き方】では、回答者のほとんどが「正社員・正規職員」または「パート・アルバイト」となっています。

	上段:度数 下段:%	正社員・ 正規職員	パート・ア ルバイト	契約社 員・派遣 社員など	自営業・ 家業	内職	その他	わからな い	働いてい ない	父または 母はいな い	不明・無 回答
③ 両親 以外 の 働 き 方	両親同居 (N=7)	1 14.3	3 42.9	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3		
	母子世帯 (N=3)	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	父子世帯 (N=6)	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7		
	小学5年生 (N=5)	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0		
	中学2年生 (N=11)	4 36.4	4 36.4	1 9.1	0 0.0	0 0.0	2 18.2	0 0.0	0 0.0		
	剥奪指標あり (N=3)	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3		
	剥奪指標なし (N=13)	3 23.1	6 46.2	1 7.7	0 0.0	0 0.0	2 15.4	0 0.0	1 7.7		

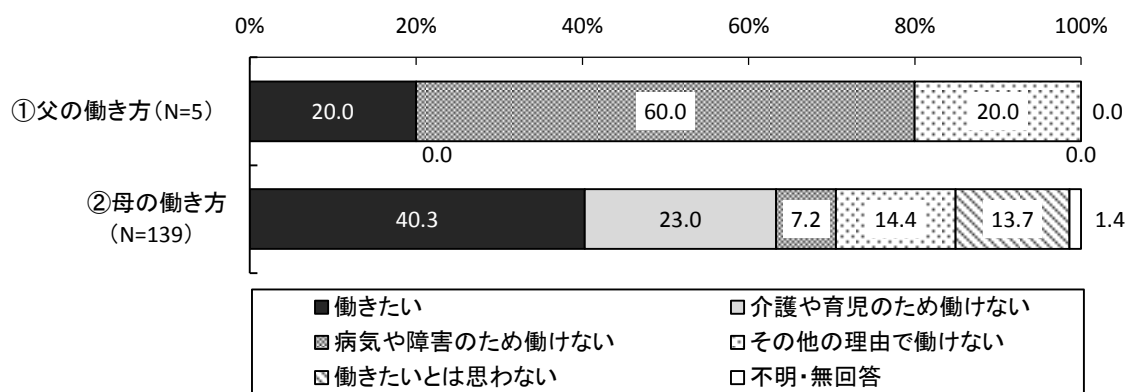
※ 【③両親以外の働き方】は「不明・無回答」を除いて表示

※ 「両親同居別」は「両親なし」の回答なし

■問 C4 で「8 働いていない」に○をされた方に、働きたいと思うかどうかについてうかがいます。

働いていない回答者の就労意向をみると、【①父の働き方】において、「働きたい」が 20.0%（1 件）、「病気や障害のため働けない」が 60.0%（3 件）、「その他の理由で働けない」が 20.0%（1 件）となっています。

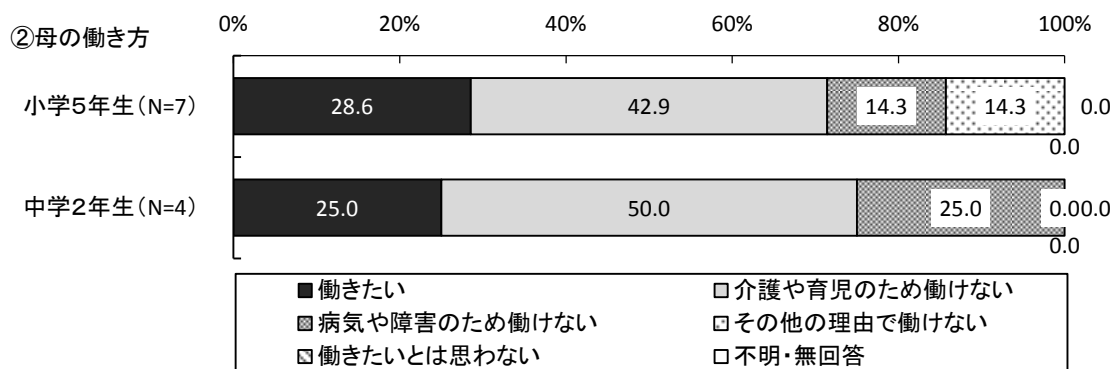
【②母の働き方】においては「働きたい」が 40.3%と最も高く、次いで「介護や育児のため働けない」が 23.0%となっています。



※ 【③両親以外の働き方】(N=2) では「不明・無回答」が 2 件

【ひとり親家庭】

ひとり親家庭をみると、【②母の働き方】において、[小学5年生][中学2年生]ともに「介護や育児のため働けない」の割合が最も高くなっています。



※ 【①父の働き方】は [小学5年生]、[中学2年生] とともに回答なし

※ 【③両親以外の働き方】は [小学5年生] で 1 件の「不明・無回答」、[中学2年生] で回答なし

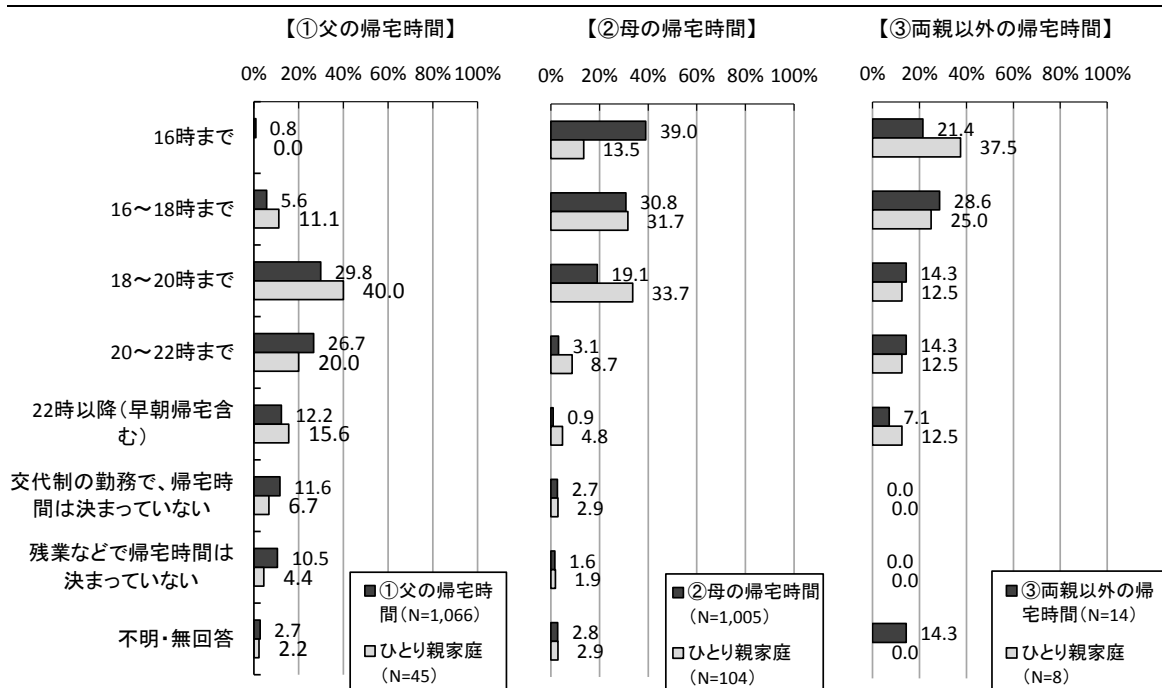
問 C4-1 現在働いている方にうかがいます。

お子さんのお父さん・お母さんが、普段仕事から帰宅する時間帯で、最も多い時間帯は何時ごろですか。(①②それぞれについて、1つに○)

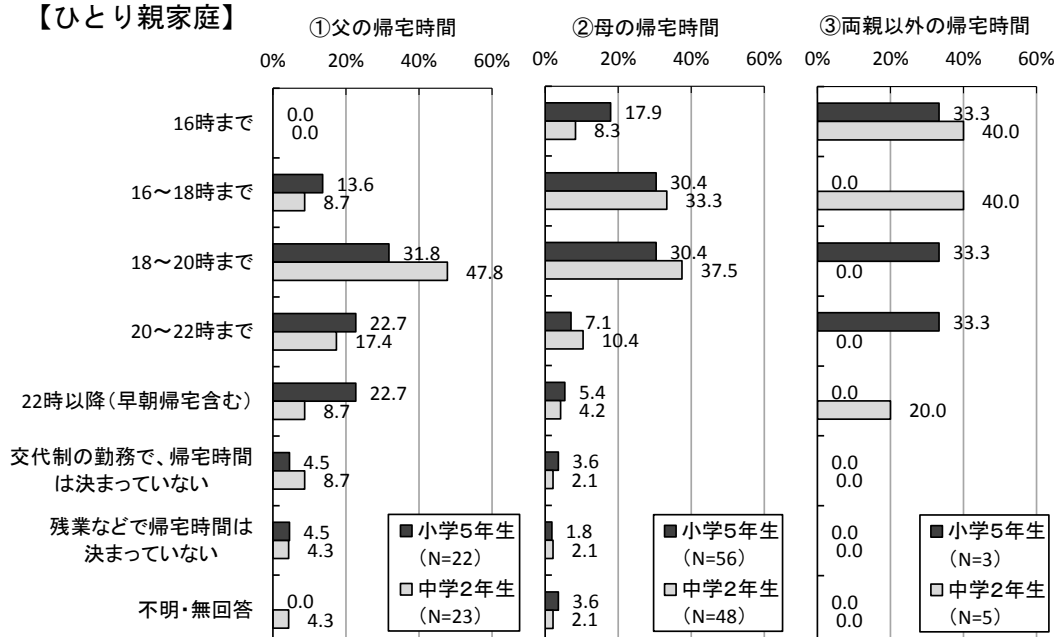
お父さん・お母さんがいない場合は、主に子育てをされている方の帰宅時間を③にお答えください。(お子さんとの続柄を()に記入してください。)

現在働いている方の帰宅時間をみると、【①父の帰宅時間】においては「18～20時まで」が29.8%、【②母の帰宅時間】においては「16時まで」が39.0%、【③両親以外の帰宅時間】においては「16～18時まで」が28.6%と最も高くなっています。

ひとり親家庭をみると、[小学5年生][中学2年生]ともに、【①父の帰宅時間】においては「18～20時まで」、「②母の帰宅時間」においては「16～18時まで」「18～20時まで」の割合が高くなっています。



【ひとり親家庭】



【クロス集計】問 C4-1 × 問 C4（働き方別）

働き方別をみると、【①父の帰宅時間】においては、[正社員・正規職員]では「20～22 時まで」、[パート・アルバイト][契約社員・派遣社員など][自営業・家業]では「18～20 時まで」の割合が最も高くなっています。

【②母の帰宅時間】においては、[正社員・正規職員][契約社員・派遣社員など][その他]では「18～20 時まで」、[パート・アルバイト][自営業・家業]では「16 時まで」の割合が最も高くなっています。

	上段:度数 下段:%	16時まで	16～18時 まで	18～20時 まで	20～22時 まで	22時以降 (早朝帰宅 含む)	交代制の 勤務で、帰 宅時間は決 まってい ない	残業など で帰宅時 間は決ま っていない	不明・無回 答
① 父 の 帰 宅 時 間	正社員・正規職員(N=916)	4 0.4	42 4.6	256 27.9	258 28.2	112 12.2	122 13.3	98 10.7	24 2.6
	パート・アルバイト(N=8)	0 0.0	2 25.0	3 37.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0
	契約社員・派遣社員など (N=16)	0 0.0	3 18.8	7 43.8	2 12.5	0 0.0	2 12.5	2 12.5	0 0.0
	自営業・家業(N=122)	4 3.3	13 10.7	52 42.6	25 20.5	15 12.3	0 0.0	9 7.4	4 3.3
	その他(N=4)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0
② 母 の 帰 宅 時 間	正社員・正規職員(N=247)	6 2.4	70 28.3	123 49.8	19 7.7	2 0.8	18 7.3	7 2.8	2 0.8
	パート・アルバイト(N=607)	341 56.2	200 32.9	37 6.1	7 1.2	5 0.8	8 1.3	4 0.7	5 0.8
	契約社員・派遣社員など (N=56)	9 16.1	18 32.1	20 35.7	4 7.1	1 1.8	1 1.8	3 5.4	0 0.0
	自営業・家業(N=67)	31 46.3	19 28.4	8 11.9	1 1.5	1 1.5	0 0.0	2 3.0	5 7.5
	その他(N=10)	2 20.0	3 30.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
③ 両 親 以 外 の 帰 宅 時 間	正社員・正規職員(N=4)	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	パート・アルバイト(N=7)	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3
	契約社員・派遣社員など (N=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他(N=2)	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0

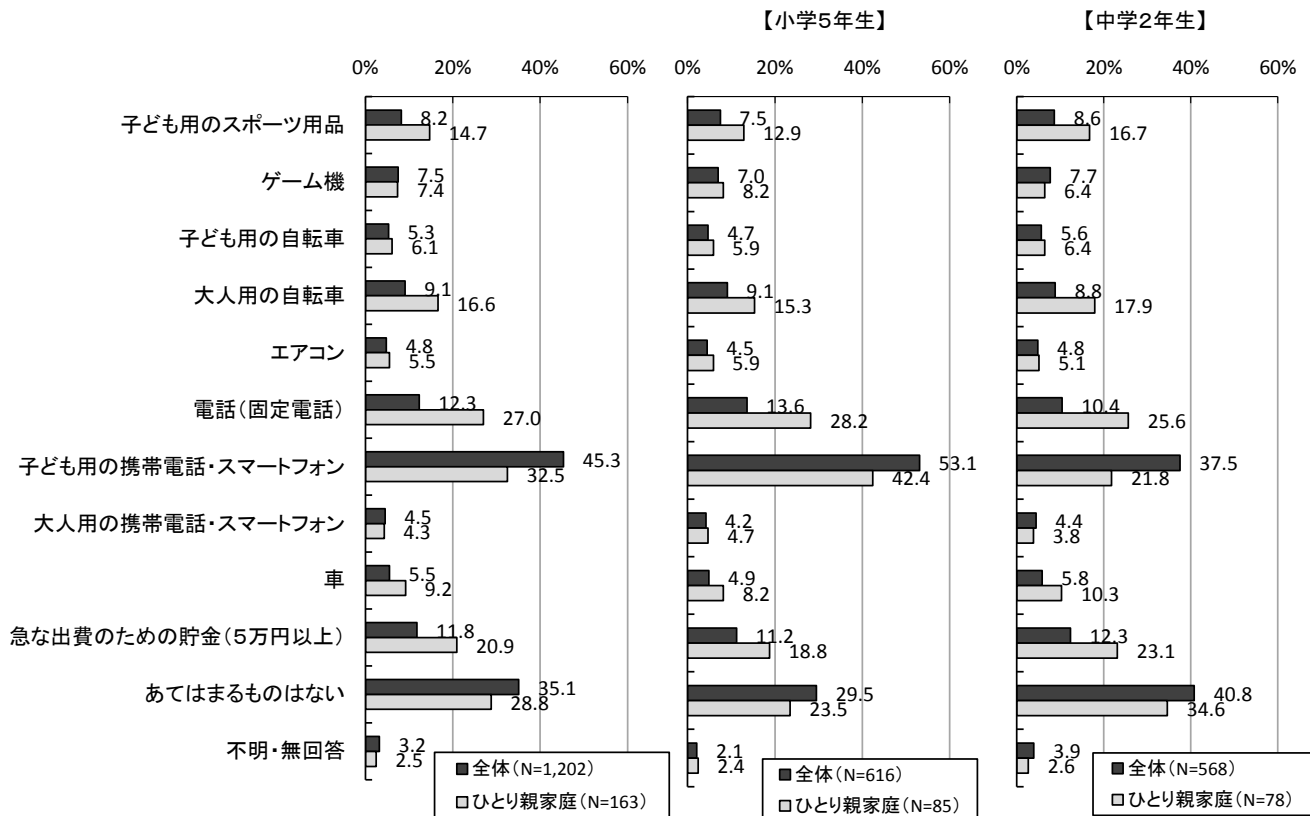
※【③両親以外の帰宅時間】は[自営業・家業]の回答なし

D 暮らしの状況について

問D1 次のもののうち、あなたの家庭にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

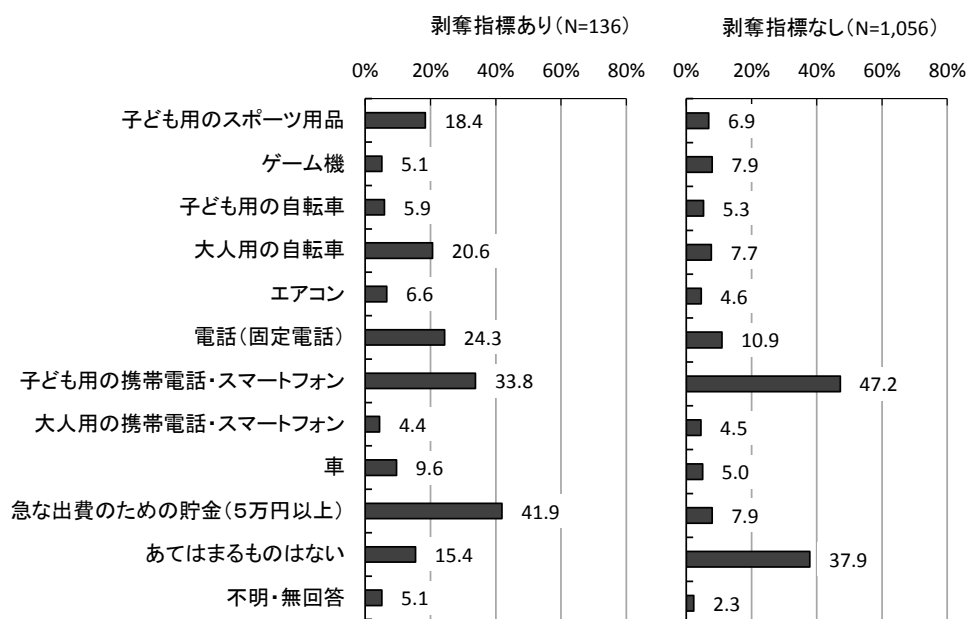
回答者の家庭にないものをみると、「子ども用の携帯電話・スマートフォン」が45.3%と最も高く、次いで「あてはまるものはない」が35.1%となっています。学年別でみると、[小学5年生]では「子ども用の携帯電話・スマートフォン」、[中学2年生]では「あてはまるものはない」の割合が最も高くなっています。

ひとり親家庭をみると、「電話（固定電話）」の保有率が全体と比べて低い一方で、「子ども用の携帯電話・スマートフォン」の保有率は全体と比べて高くなっています。また、「急な出費のための貯金（5万円以上）」も「ない」割合が[小学5年生]で18.8%、[中学2年生]で23.1%となっています。



【クロス集計】問 D1 × 問 D3（剥奪指標の有無別）

剥奪指標の有無別でみると、[剥奪指標あり] では「急な出費のための貯金（5万円以上）」、[剥奪指標なし] では「子ども用の携帯電話・スマートフォン」の割合が最も高くなっています。



【クロス集計】問 D1 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別でみると、[母子世帯] では「電話（固定電話）」が「ない」割合が最も高く、また、「子ども用の携帯電話・スマートフォン」が「ない」割合が、他の区分と比べて低くなっています。

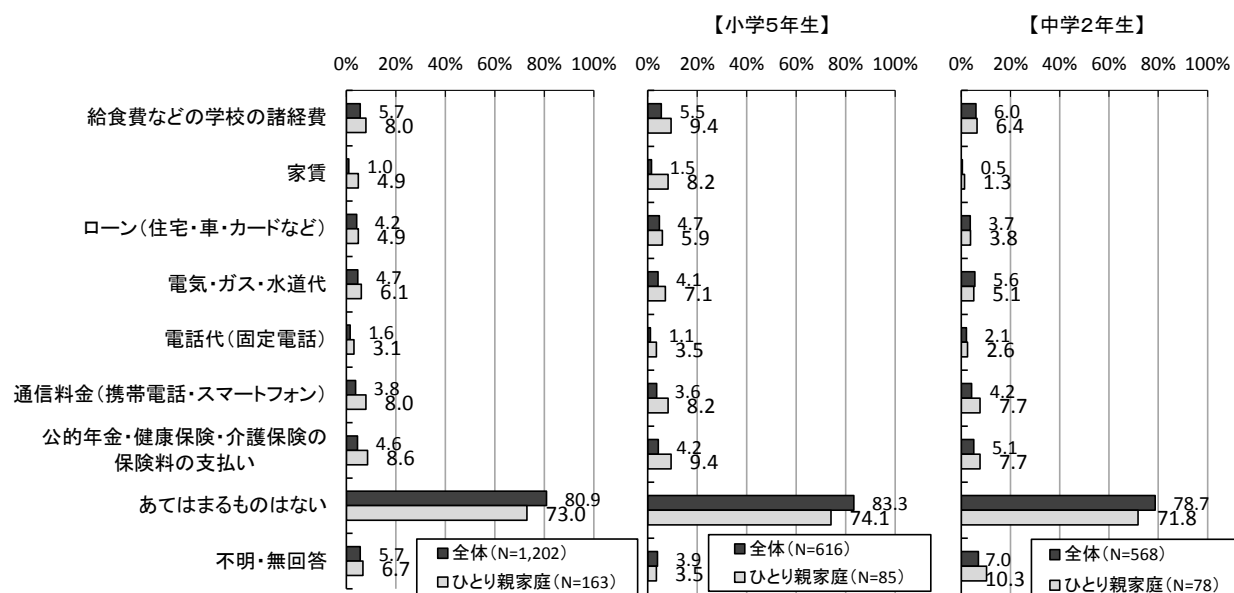
上段:度数 下段:%	子ども用のスポーツ用品	ゲーム機	子ども用の自転車	大人用の自転車	エアコン	電話(固定電話)
全体 (N=1,202)	98 8.2	90 7.5	64 5.3	109 9.1	58 4.8	148 12.3
両親同居 (N=1,010)	71 7.0	76 7.5	52 5.1	79 7.8	47 4.7	99 9.8
母子世帯 (N=118)	20 16.9	10 8.5	6 5.1	23 19.5	6 5.1	39 33.1
父子世帯 (N=45)	4 8.9	2 4.4	4 8.9	4 8.9	3 6.7	5 11.1
両親なし (N=13)	1 7.7	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7

上段:度数 下段:%	子ども用の携帯電話・スマートフォン	大人用の携帯電話・スマートフォン	車	急な出費のための貯金(5万円以上)	あてはまるものはない	不明・無回答
全体 (N=1,202)	544 45.3	54 4.5	66 5.5	142 11.8	422 35.1	38 3.2
両親同居 (N=1,010)	480 47.5	45 4.5	49 4.9	106 10.5	363 35.9	31 3.1
母子世帯 (N=118)	34 28.8	5 4.2	13 11.0	30 25.4	28 23.7	3 2.5
父子世帯 (N=45)	19 42.2	2 4.4	2 4.4	4 8.9	19 42.2	1 2.2
両親なし (N=13)	8 61.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 30.8	0 0.0

問 D2 次の費用のうち、過去 1 年間に支払いが遅れたことはありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

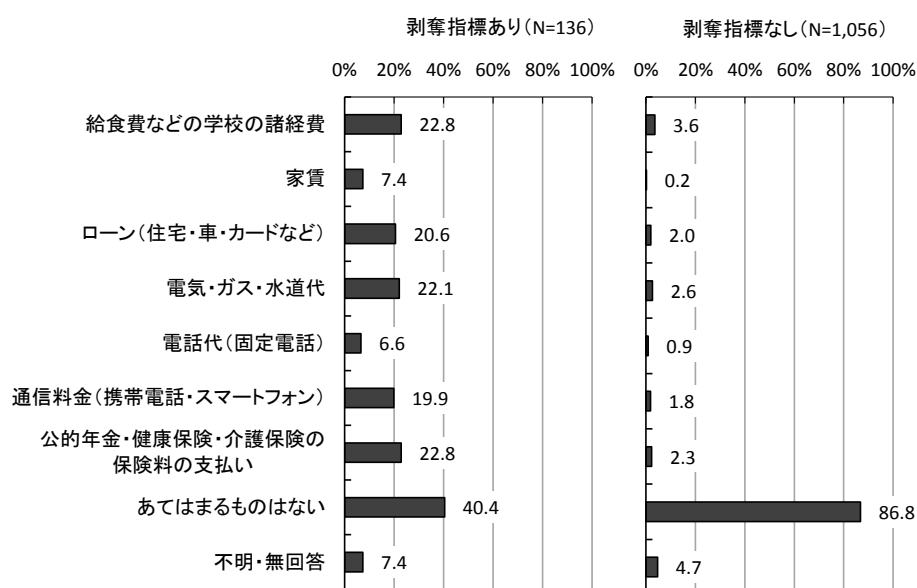
過去 1 年間に支払いが遅れたことがあるものをみると、「あてはまるものはない」が 80.9%と最も高くなっています。

ひとり親家庭をみると、「あてはまるものはない」は全体と比べて低くなっています。



【クロス集計】問 D2 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別でみると、「あてはまるものはない」の割合が[剥奪指標あり]では 40.4%、[剥奪指標なし]では 86.8%と、46.4 ポイントの差がみられます。また、[剥奪指標あり]では「あてはまるものはない」以外の選択肢の割合も、[剥奪指標なし]と比べて高くなっています。



【クロス集計】問 D2 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別でみると、すべての区分で「あてはまるものはない」の割合が最も高くなっていますが、
 [母子世帯] では 66.9%と、他の区分と比べて 10.0 ポイント以上の差がみられます。

上段:度数 下段:%	給食費などの学校の諸経費	家賃	ローン(住宅・車・カードなど)	電気・ガス・水道代	電話代(固定電話)	通信料金(携帯電話・スマートフォン)	公的年金・健康保険・介護保険の保険料の支払い	あてはまるものはない	不明・無回答
全体(N=1,202)	69 5.7	12 1.0	50 4.2	57 4.7	19 1.6	46 3.8	55 4.6	973 80.9	68 5.7
両親同居(N=1,010)	54 5.3	4 0.4	42 4.2	47 4.7	14 1.4	33 3.3	41 4.1	832 82.4	52 5.1
母子世帯(N=118)	11 9.3	8 6.8	8 6.8	10 8.5	4 3.4	12 10.2	14 11.9	79 66.9	9 7.6
父子世帯(N=45)	2 4.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.2	1 2.2	0 0.0	40 88.9	2 4.4
両親なし(N=13)	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 84.6	1 7.7

問 D3 あなたは、過去 1 年間に、お金がなくて家族が必要とする食べ物や衣服が買えないことがありましたか。(1つに○)

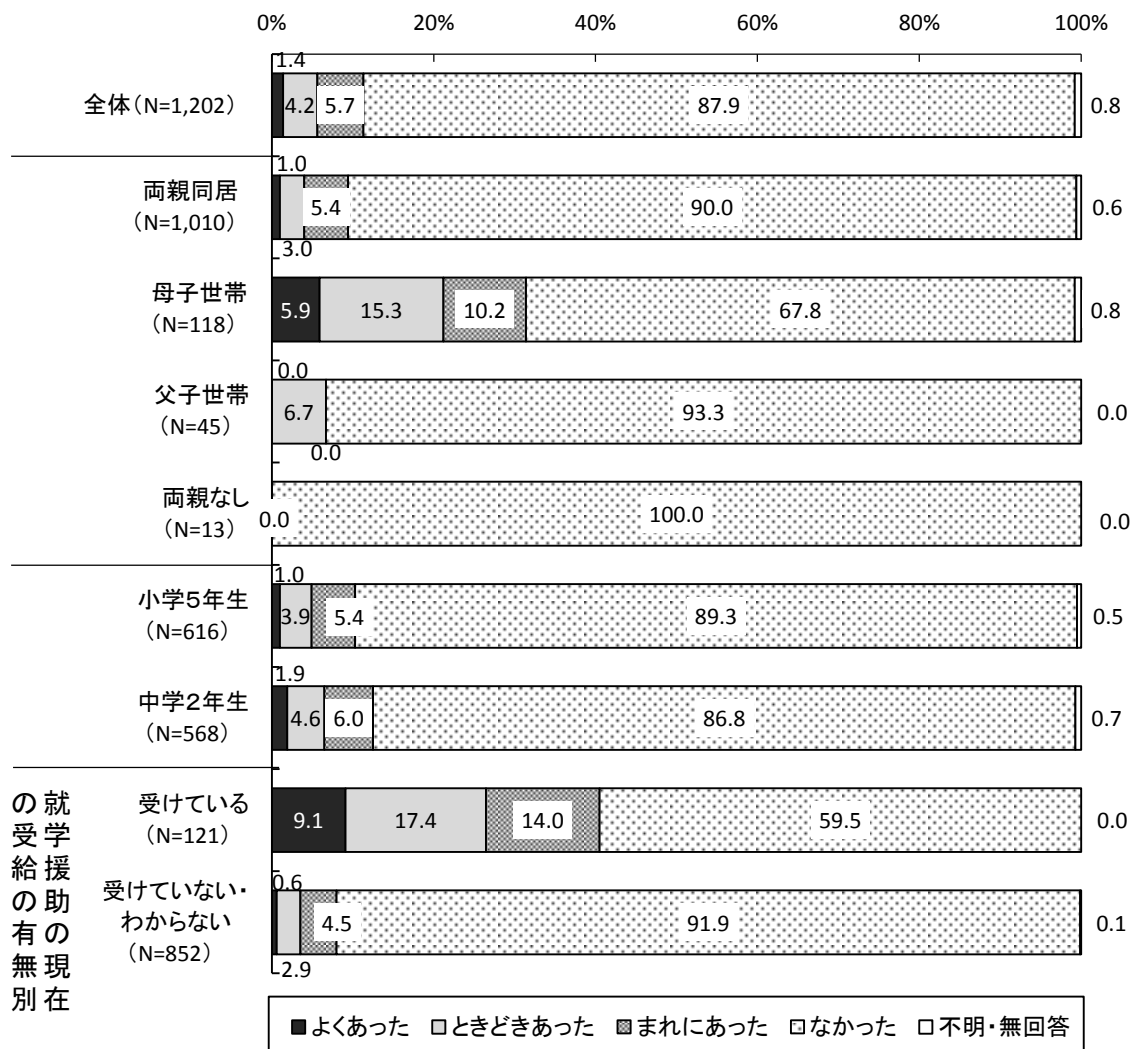
過去 1 年間で、必要とする食べ物や衣服が買えない経験の有無をみると、『あった』(「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」)の割合の合計)が 11.3%となっています。

両親同居別でみると、[母子世帯]では『あった』の割合が 31.4%と、他の区分と比べて高くなっています。また、[両親同居]でも、『あった』の割合が 9.4%となっています。

学年別でみると、『あった』の割合が[小学 5 年生]で 10.3%、[中学 2 年生]で 12.5%となっています。

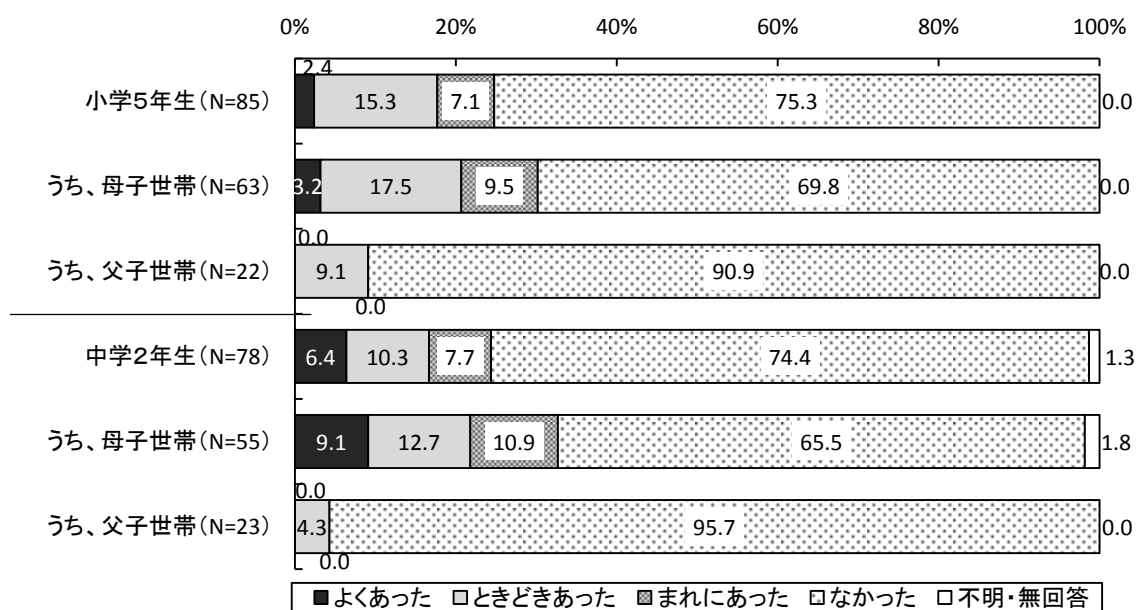
就学援助の現在の受給の有無別でみると、[受けている]では『あった』の割合は 40.5%となっています。

【全体 + クロス集計】問 D3 × 問 A5 (両親同居別)、問 B1 (学年別)、問 E1 ((2) 就学援助の受給別)



【ひとり親家庭】

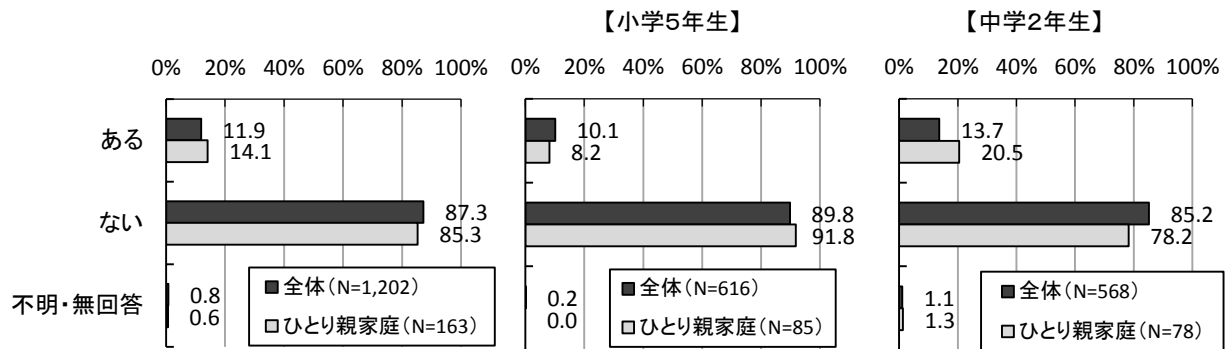
ひとり親家庭をみると、『あった』の割合は〔小学5年生〕では24.8%、〔中学2年生〕では24.4%となっており、ともに〔父子世帯〕よりも〔母子世帯〕の割合が高くなっています。



問 D4 過去1年間に、子どもの病気やけがの治療のため、病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、受診しなかったことがありますか。(1つに○)

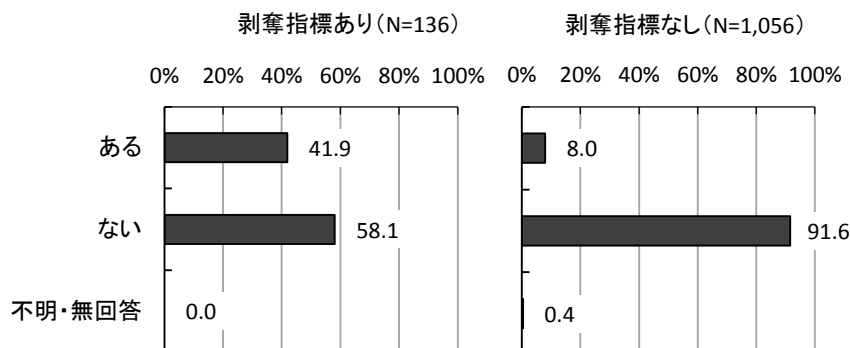
過去1年間で、子どもが病院や診療所を受診したほうがよいのに、しなかった経験の有無をみると、「ある」が11.9%、「ない」が87.3%となっています。

ひとり親家庭をみると、「ある」の割合は、[小学5年生]では8.2%、[中学2年生]では20.5%となっており、12.3ポイントの差があります。



【クロス集計】 問 D4 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別をみると、「ある」の割合は、[剥奪指標あり]では41.9%、[剥奪指標なし]では8.0%となっており、33.9ポイントの差があります。

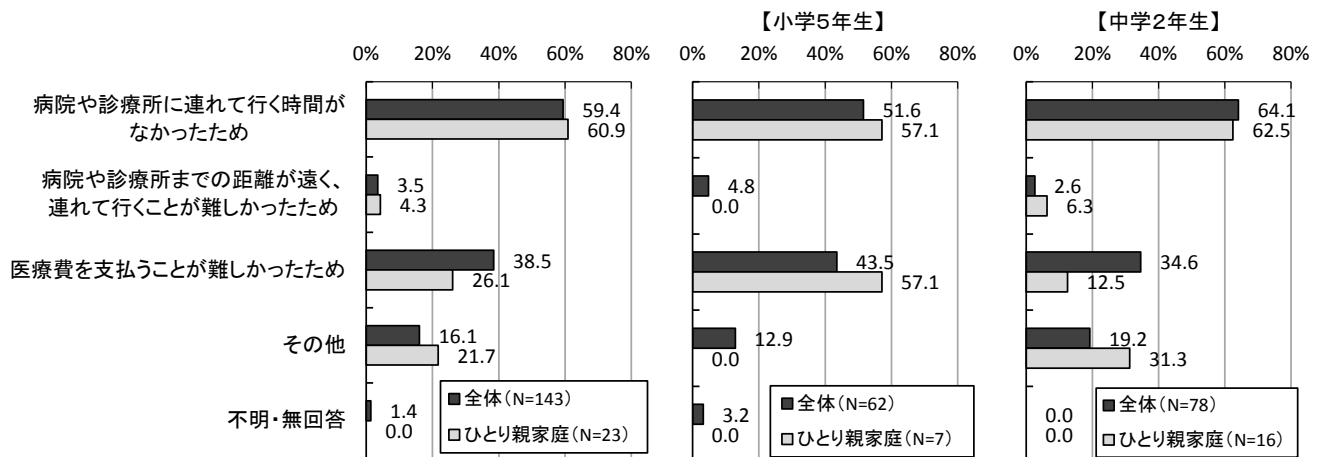


問 D4-1 問 D4 で、「1 ある」を選んだ方にうかがいます。

病院や診療所を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

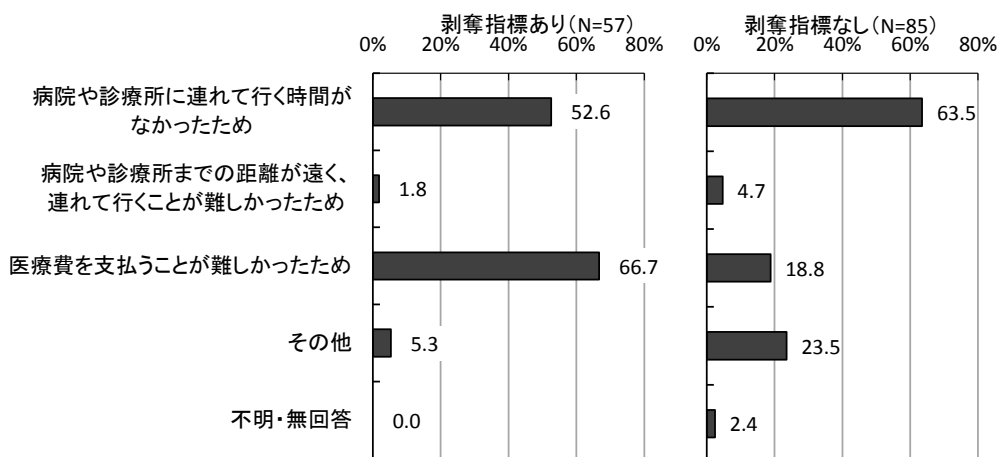
受診しなかった理由をみると、「病院や診療所に連れて行く時間がなかったため」が 59.4%と最も高く、次いで「医療費を支払うことが難しかったため」が 38.5%となっています。学年別でみると、「医療費を支払うことが難しかったため」の割合は、[小学5年生] では 43.5%、[中学2年生] では 34.6%となっています。

ひとり親家庭をみると、[小学5年生] では「病院や診療所に連れて行く時間がなかったため」「医療費を支払うことが難しかったため」の割合が 57.1%と最も高くなっています。



【クロス集計】 問 D4-1 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別をみると、「医療費を支払うことが難しかったため」の割合は、[剥奪指標あり] では 66.7%、[剥奪指標なし] では 18.8%となっており、47.9 ポイントの差があります。



【クロス集計】問 D4-1 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別でみると、すべての区分で「病院や診療所に連れて行く時間がなかったため」の割合が最も高くなっています。

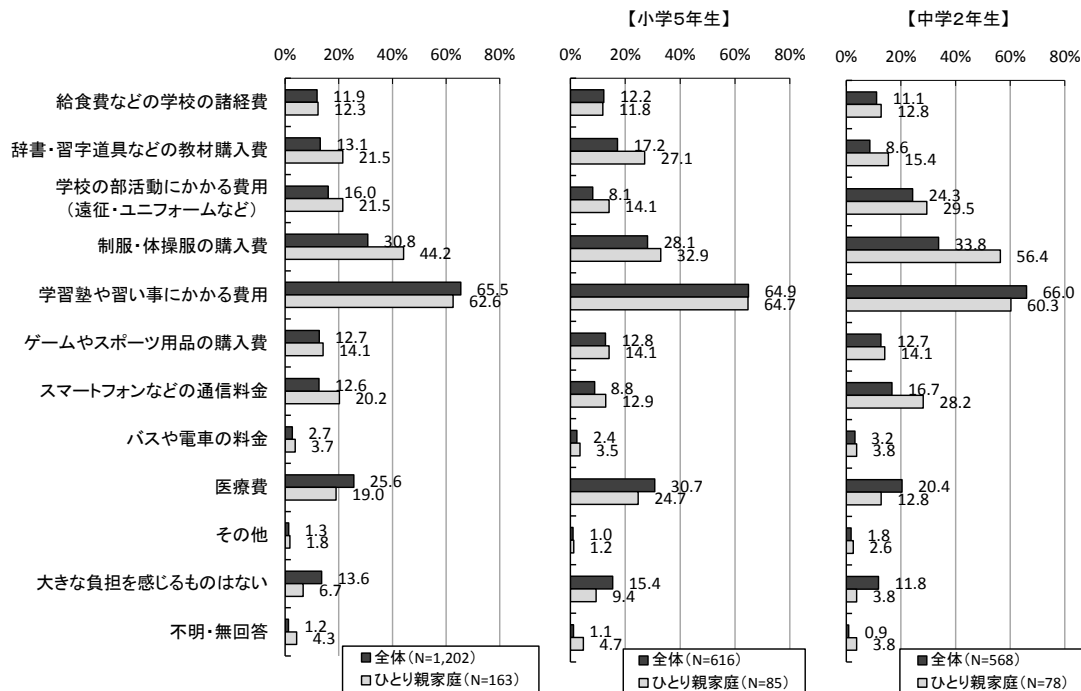
上段:度数 下段:%	病院や診療 所に連れて 行く時間がな かったため	病院や診療 所までの距 離が遠く、連 れて行くこと が難しかった ため	医療費を支 払うことが難 しかったため	その他	不明・無回答
全体 (N=1,202)	85 59.4	5 3.5	55 38.5	23 16.1	2 1.4
両親同居 (N=1,010)	69 58.5	4 3.4	48 40.7	18 15.3	2 1.7
母子世帯 (N=118)	10 58.8	1 5.9	4 23.5	3 17.6	0 0.0
父子世帯 (N=45)	4 66.7	0 0.0	2 33.3	2 33.3	0 0.0

※ [両親なし] の回答なし

問 D5 お子さんにかかる費用のうち、経済的に負担が大きいと感じるものは何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

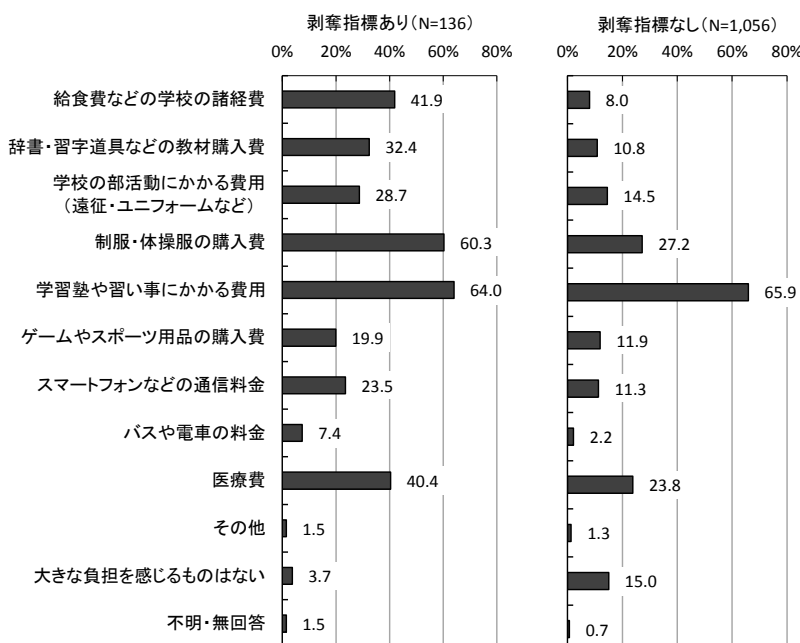
子どもにかかる費用のうちで、経済的負担が大きいと感じるものをみると、「学習塾や習い事にかかる費用」が65.5%と最も高く、次いで「制服・体操服の購入費」が30.8%となっています。

ひとり親家庭をみると、[中学2年生] では「制服・体操服の購入費」の割合が56.4%と、全体より高くなっています。



【クロス集計】 問 D5 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別をみると、[剥奪指標あり] では「給食費などの学校の諸経費」「辞書・習字道具などの教材購入費」「制服・体操服の購入費」「医療費」等の割合が、[剥奪指標なし] よりも高くなっています。



【クロス集計】問 D5 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別でみると、すべての区分で「学習塾や習い事にかかる費用」の割合が最も高くなっています。

上段:度数 下段:%	給食費などの学校の諸経費	辞書・習字道具などの教材購入費	学校の部活動にかかる費用(遠征・ユニフォームなど)	制服・体操服の購入費	学習塾や習い事にかかる費用	ゲームやスポーツ用品の購入費
全体(N=1,202)	143 11.9	158 13.1	192 16.0	370 30.8	787 65.5	153 12.7
両親同居(N=1,010)	118 11.7	119 11.8	153 15.1	291 28.8	666 65.9	128 12.7
母子世帯(N=118)	19 16.1	30 25.4	27 22.9	58 49.2	74 62.7	17 14.4
父子世帯(N=45)	1 2.2	5 11.1	8 17.8	14 31.1	28 62.2	6 13.3
両親なし(N=13)	2 15.4	2 15.4	3 23.1	3 23.1	9 69.2	0 0.0
上段:度数 下段:%	スマートフォンなどの通信料金	バスや電車の料金	医療費	その他	大きな負担を感じるものはない	不明・無回答
全体(N=1,202)	151 12.6	33 2.7	308 25.6	16 1.3	163 13.6	15 1.2
両親同居(N=1,010)	113 11.2	27 2.7	274 27.1	13 1.3	148 14.7	5 0.5
母子世帯(N=118)	26 22.0	5 4.2	22 18.6	2 1.7	6 5.1	6 5.1
父子世帯(N=45)	7 15.6	1 2.2	9 20.0	1 2.2	5 11.1	1 2.2
両親なし(N=13)	2 15.4	0 0.0	1 7.7	0 0.0	2 15.4	0 0.0

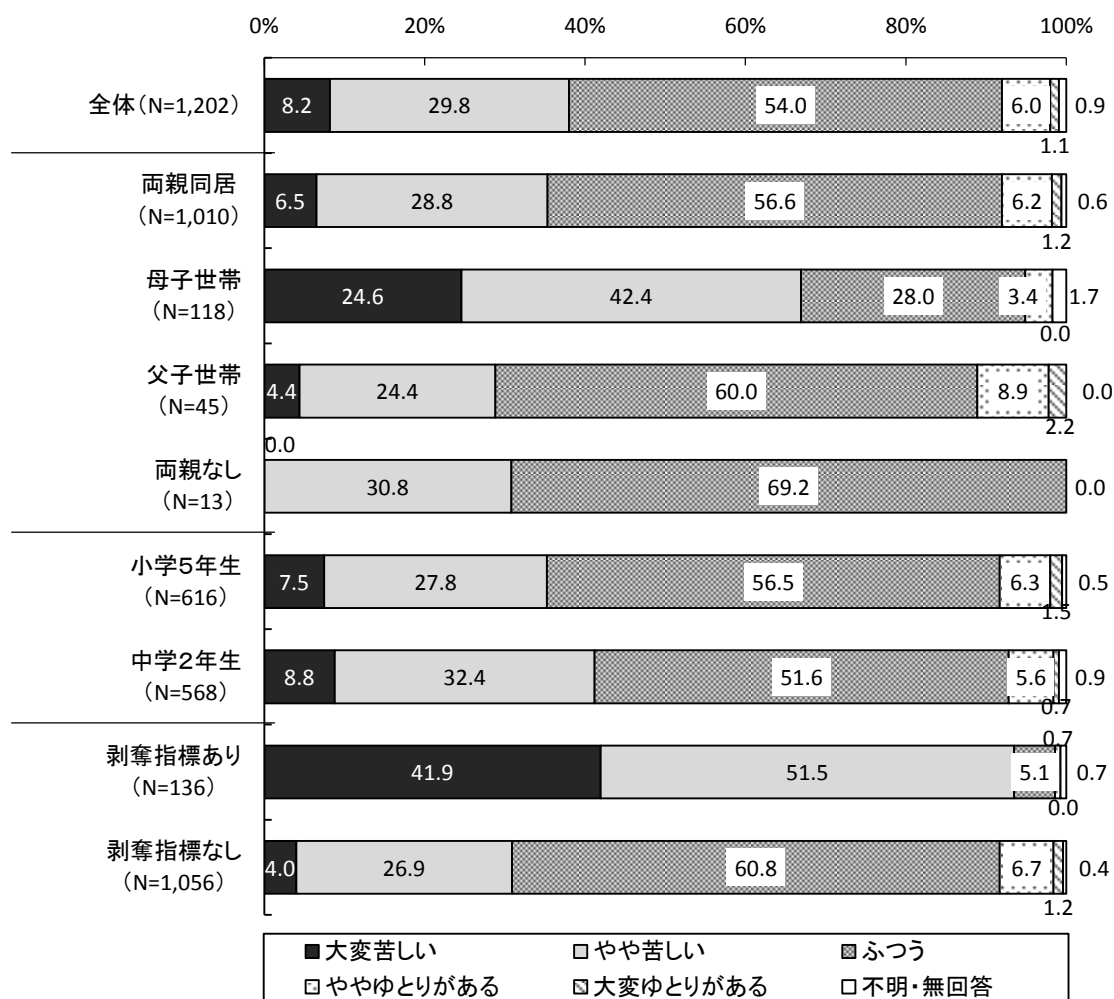
問 D6 現在の暮らしの状況を、どう感じていますか。(1つに○)

現在の暮らしの状況をみると、「ふつう」が54.0%と最も高く、次いで「やや苦しい」が29.8%となっています。また、『苦しい』（「大変苦しい」「やや苦しい」の割合の合計）が38.0%、『ゆとりがある』（「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」の割合の合計）が7.1%となっています。

両親同居別でみると、[母子世帯]では『苦しい』の割合が67.0%となっています。

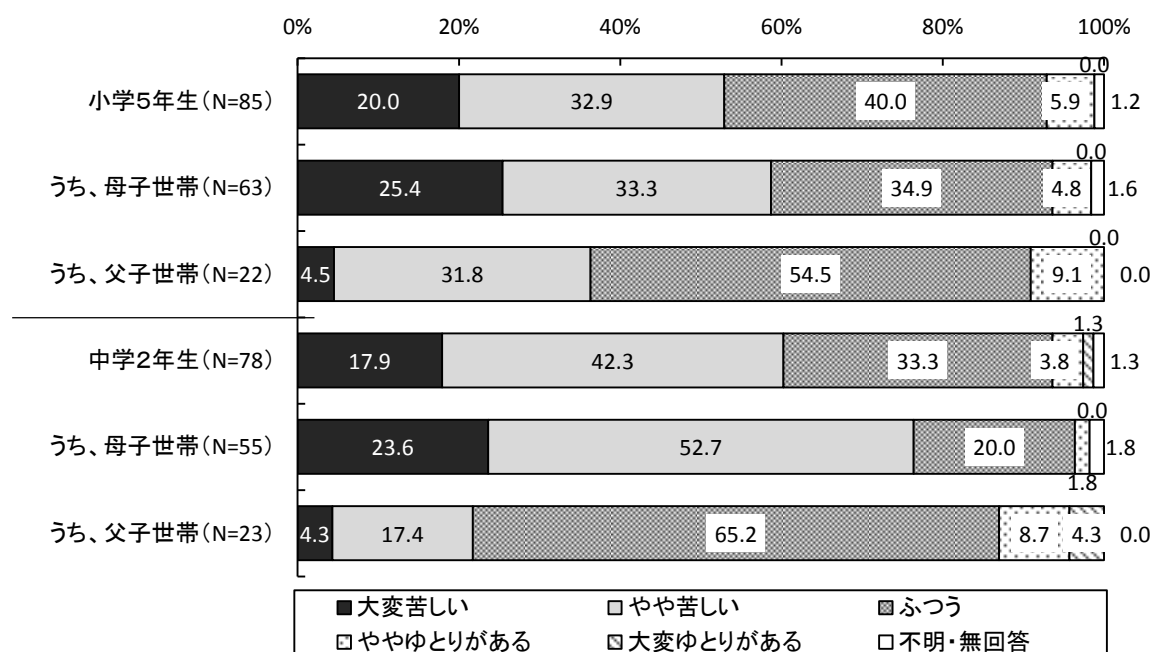
剥奪指標の有無別でみると、『苦しい』の割合が[剥奪指標あり]では93.4%、[剥奪指標なし]では30.9%となっており、62.5ポイントの差があります。特に、[剥奪指標あり]では「大変苦しい」の割合が41.9%と、他の区分と比べて高くなっています。

【全体 + クロス集計】問 D6 × 問 A5（両親同居別）、問 B1（学年別）、問 D3（剥奪指標の有無別）



【ひとり親家庭】

ひとり親家庭をみると、『苦しい』の割合が〔小学5年生〕では52.9%、〔中学2年生〕では60.2%となっており、ともに〔父子世帯〕よりも〔母子世帯〕の方が『苦しい』の割合が高くなっています。



E 市の取り組みについて

問 E1 あなたは、過去 1 年間に、次の手当や援助などを受けたことがありますか。

((1) ~ (7) それぞれについて、1 つに○)

過去 1 年間に受けた手当や援助をみると、[(1) 児童手当] では「受けている」が 88.8% と最も高く、他の手当や援助を「受けている」割合を大きく上回っています。また、[(1) 児童手当] 以外の手当や援助では、「受けたことがない」の割合が最も高く、8 ~ 9 割以上となっています。

ひとり親家庭をみると、[(1) 児童手当] [(2) 就学援助] [(3) 児童扶養手当] では「受けている」の割合が最も高くなっています。

		受けている	受けたことがある	受けたことがない	わからない
(1) 児童手当	全体 (N=1,158)	88.8	2.4	6.8	2.0
	ひとり親 (N=156)	91.0	2.6	4.5	1.9
(2) 就学援助※1	全体 (N=973)	12.4	2.6	84.4	0.6
	ひとり親 (N=136)	48.5	5.1	45.6	0.7
(3) 児童扶養手当※2	全体 (N=954)	8.7	2.3	87.7	1.3
	ひとり親 (N=137)	48.2	7.3	43.8	0.7
(4) 障害や難病の手当※3	全体 (N=929)	2.0	0.6	96.7	0.6
	ひとり親 (N=109)	1.8	1.8	95.4	0.9
(5) 生活保護	全体 (N=923)	0.5	0.2	98.7	0.5
	ひとり親 (N=112)	4.5	0.0	94.6	0.9
(6) 公的年金(遺族年金・障害年金)	全体 (N=922)	1.2	0.3	97.2	1.3
	ひとり親 (N=110)	4.5	0.9	93.6	0.9
(7) 公的年金(老齢年金)	全体 (N=921)	0.2	0.3	98.3	1.2
	ひとり親 (N=108)	0.9	0.0	98.1	0.9

※ (1) から (7) について、「不明・無回答」を除いて表示

※ 1 学校給食費や学用品費などの支払いにお困りの保護者の方に対し、申請にもとづいて費用の一部を援助する制度。

※ 2 ひとり親世帯等で、18 歳に達した年度末（中度以上の障害のある児童は 20 歳）までの児童を養育している方に支給される手当。

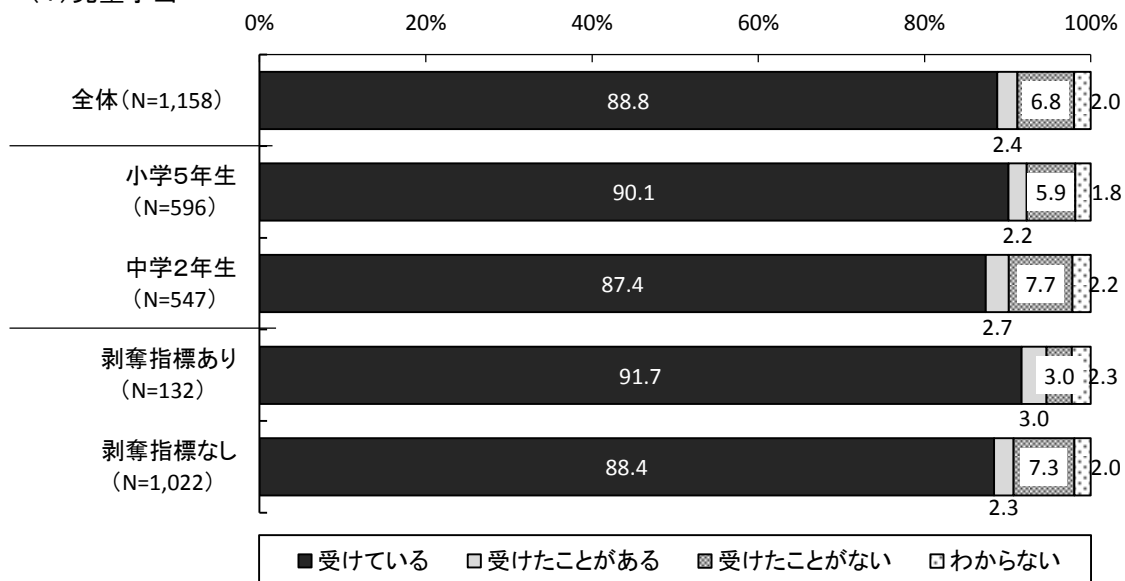
※ 3 障害や難病を理由とした手当には、特別児童扶養手当、特別障害者手当、障害児福祉手当などがある。

【クロス集計】問 E1 × 問 B1（学年別）、問 D3（剥奪指標の有無別）

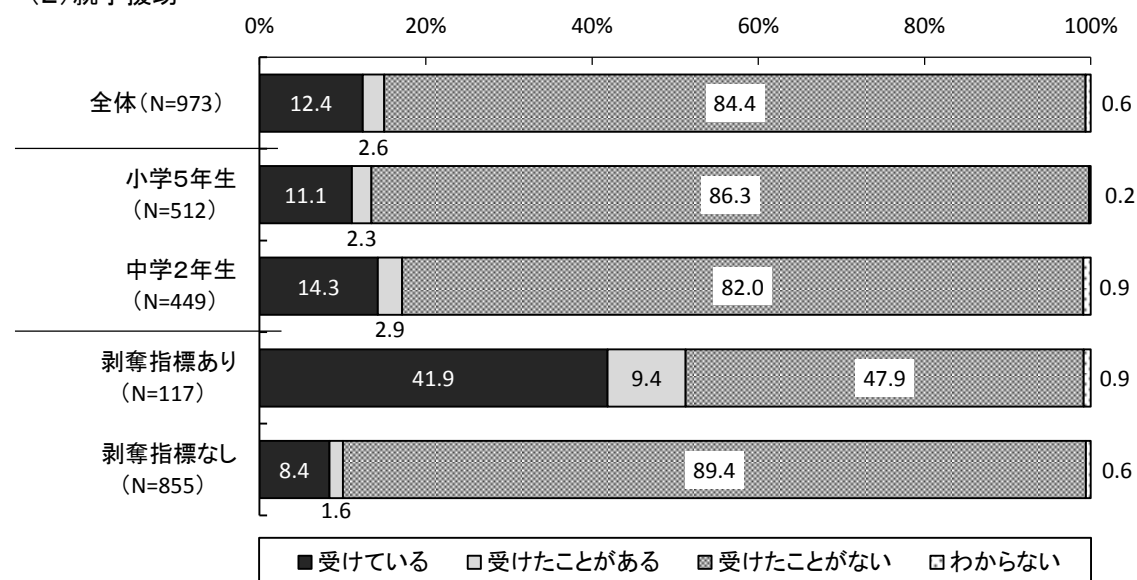
【（１）児童手当】において、学年別、剥奪指標の有無別でみると、すべての区分で「受けている」の割合が最も高くなっています。

【（２）就学援助】において、学年別でみると、「受けている」の割合は〔小学５年生〕では 11.1%、〔中学２年生〕では 14.3%となっています。剥奪指標の有無別でみると、〔剥奪指標あり〕では「受けている」の割合は 41.9%となっており、「受けたことがある」の割合を合わせると 51.3%となっています。

（１）児童手当



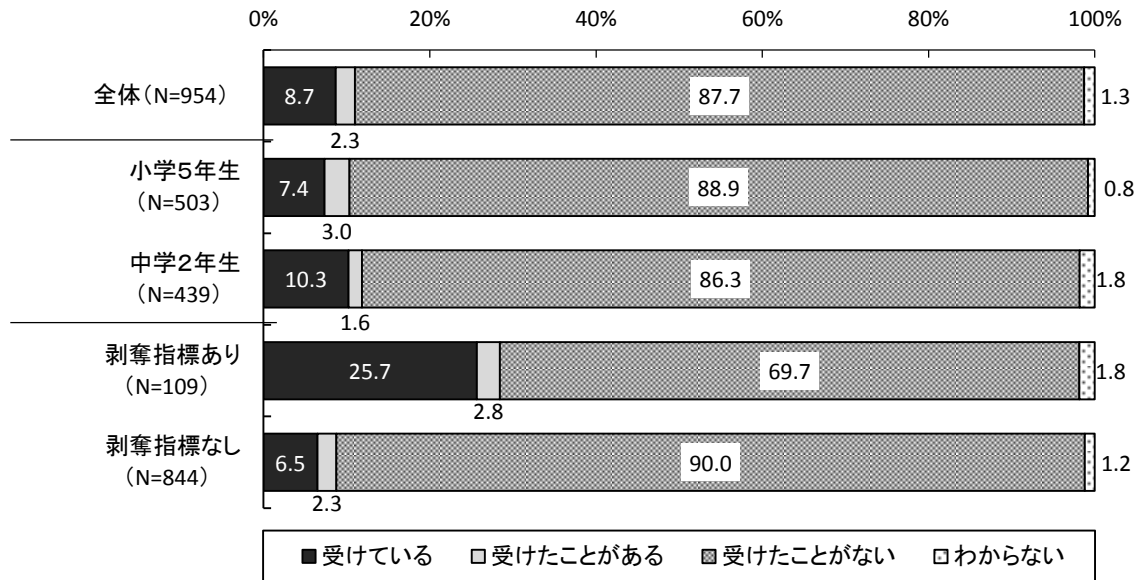
（２）就学援助



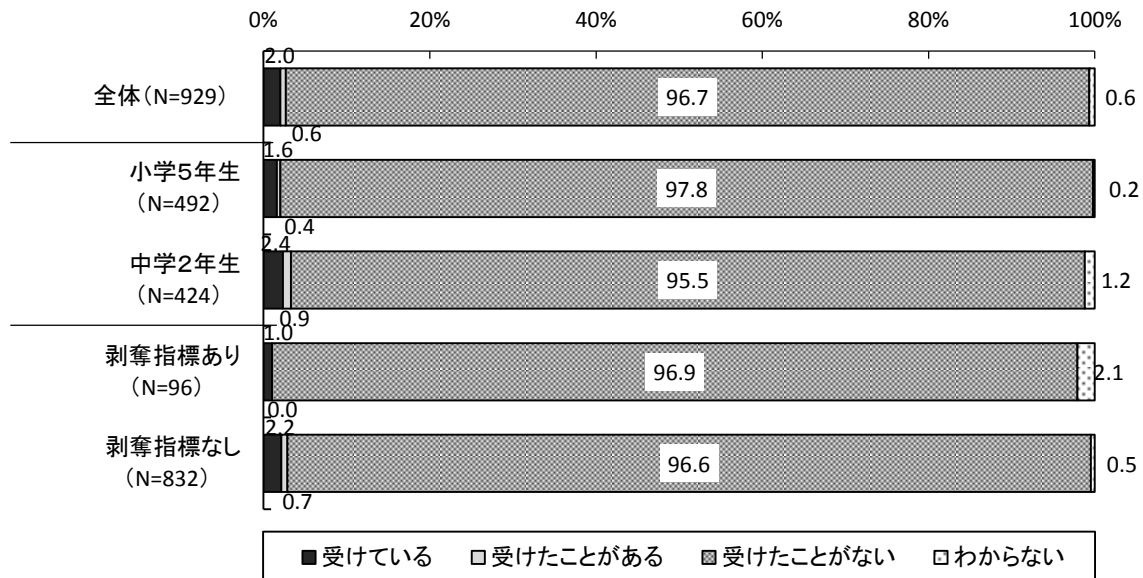
【(3) 児童扶養手当】において、学年別でみると、「受けている」の割合は〔小学5年生〕では7.4%、〔中学2年生〕では10.3%となっています。剥奪指標の有無別でみると、〔剥奪指標あり〕では「受けている」の割合が25.7%となっています。

【(4) 障害や難病の手当て】において、学年別、剥奪指標の有無別でみると、すべての区分で「受けたことがない」の割合が最も高くなっています。

(3) 児童扶養手当

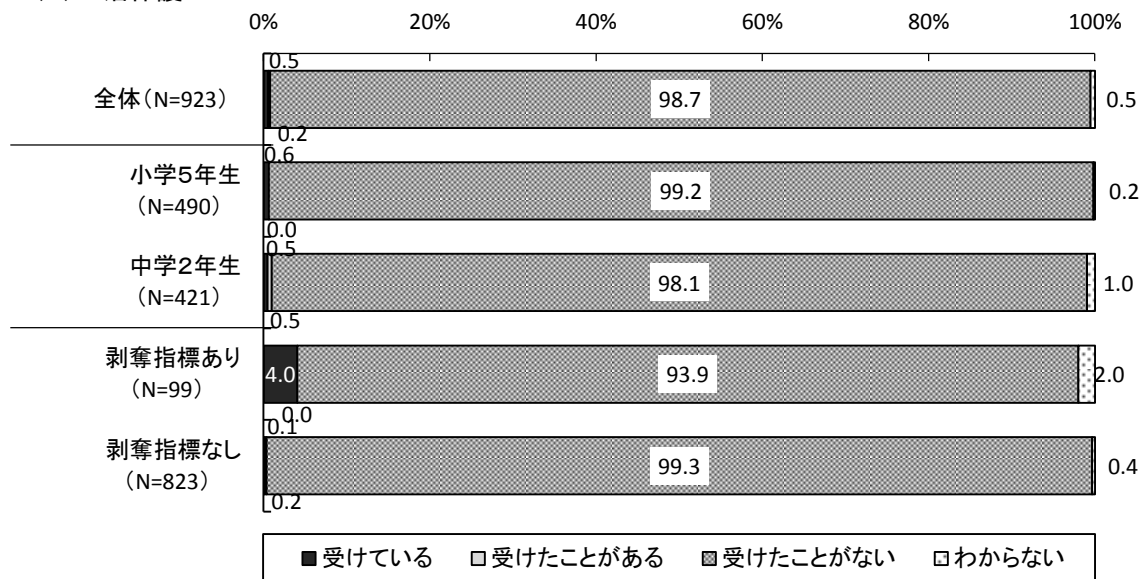


(4) 障害や難病の手当て

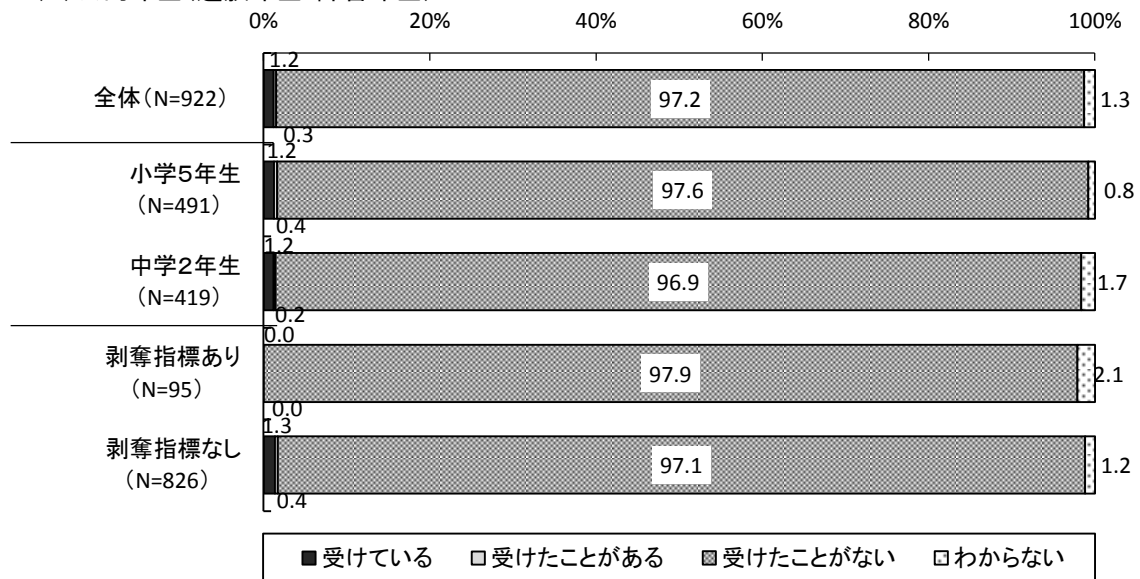


【(5) 生活保護】【(6) 公的年金（遺族年金・障害年金）】において、学年別、剥奪指標の有無別で見ると、すべての区分で「受けたことがない」の割合が最も高くなっています。

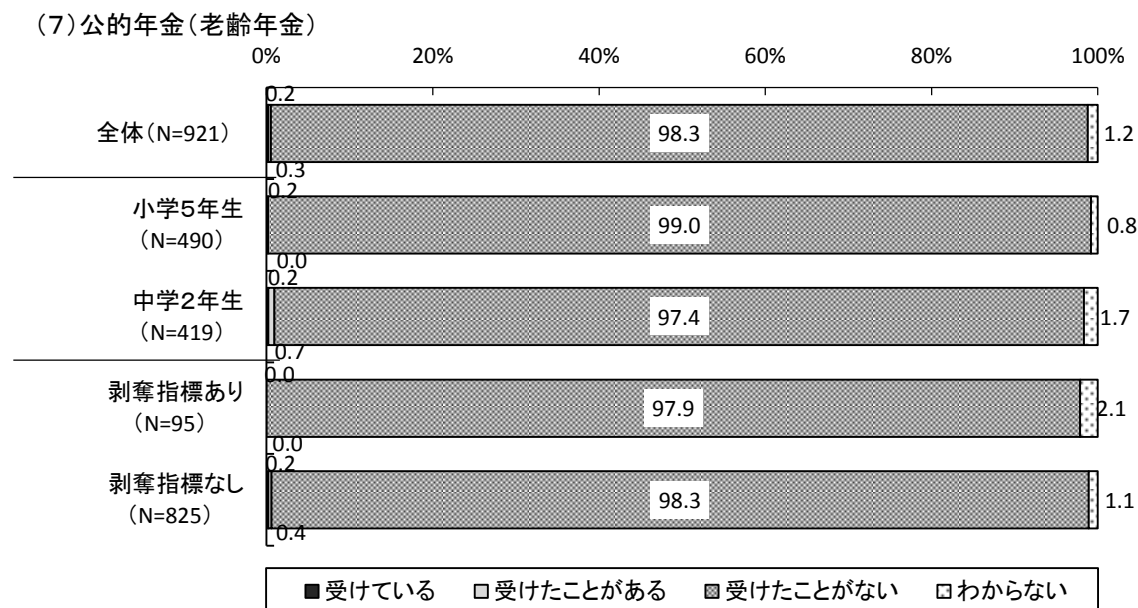
(5) 生活保護



(6) 公的年金（遺族年金・障害年金）



【(7) 公的年金(老齢年金)】において、学年別、剥奪指標の有無別でみると、すべての区分で「受けたことがない」の割合が最も高くなっています。

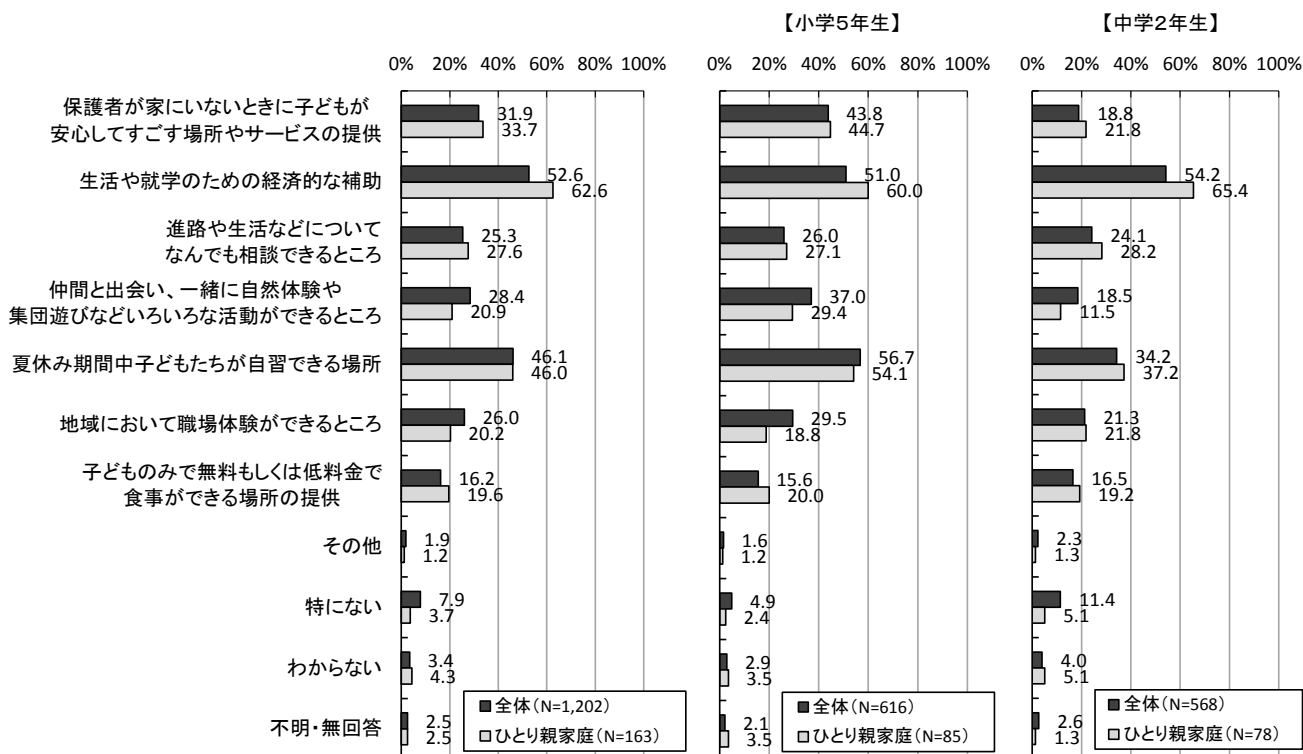


※ (1) から (7) について、「不明・無回答」を除いて表示

問 E2 お子さんにとって、現在または将来的に、次のような支援があった場合、利用したいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

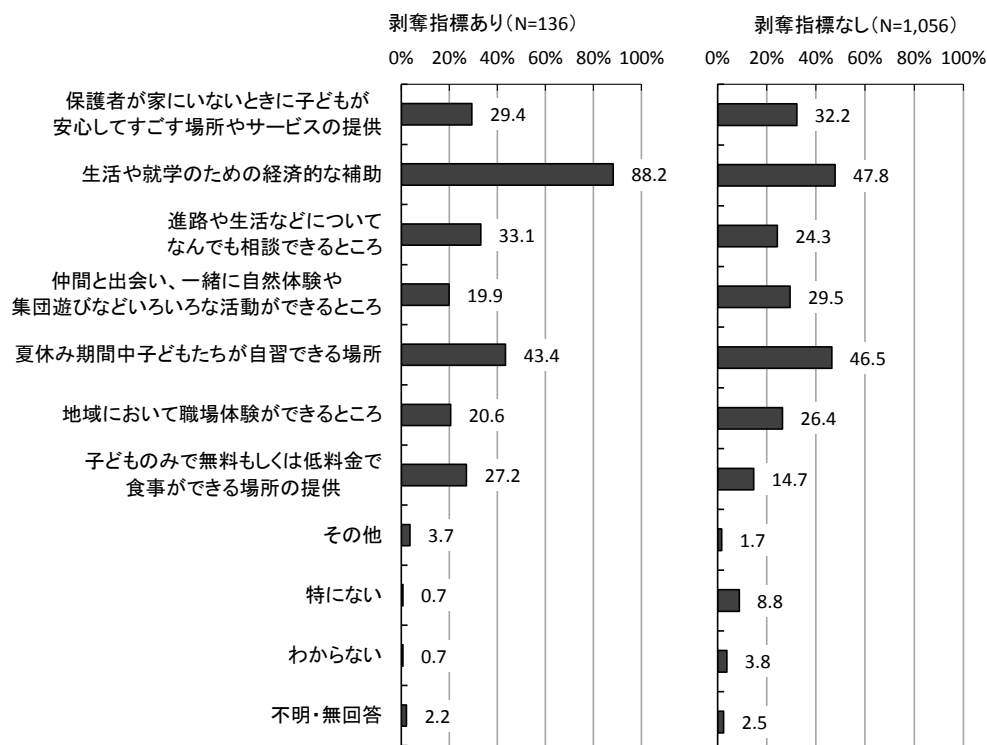
あれば利用したいと思う子どもへの支援をみると、「生活や就学のための経済的な補助」が 52.6%と最も高く、次いで「夏休み期間中子どもたちが自習できる場所」が 46.1%、「保護者が家にいないときに子どもが安心して過ごす場所やサービスの提供」が 31.9%となっています。

ひとり親家庭では、[小学5年生][中学2年生]ともに「生活や就学のための経済的な補助」や「子どものみで無料もしくは低料金で食事ができる場所の提供」の割合が全体と比べて高くなっています。



【クロス集計】 問 E2 × 問 D3 (剥奪指標の有無別)

剥奪指標の有無別でみると、「生活や就学のための経済的な補助」の割合は[剥奪指標あり]で 88.2%、[剥奪指標なし]で 47.8%となっており、40.4 ポイントの差があります。



【クロス集計】問 E2 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別をみると、〔父子世帯〕以外の区分では「生活や就学のための経済的な補助」の割合が最も高く、〔父子世帯〕では「夏休み期間中子どもたちが自習できる場所」の割合が最も高くなっています。

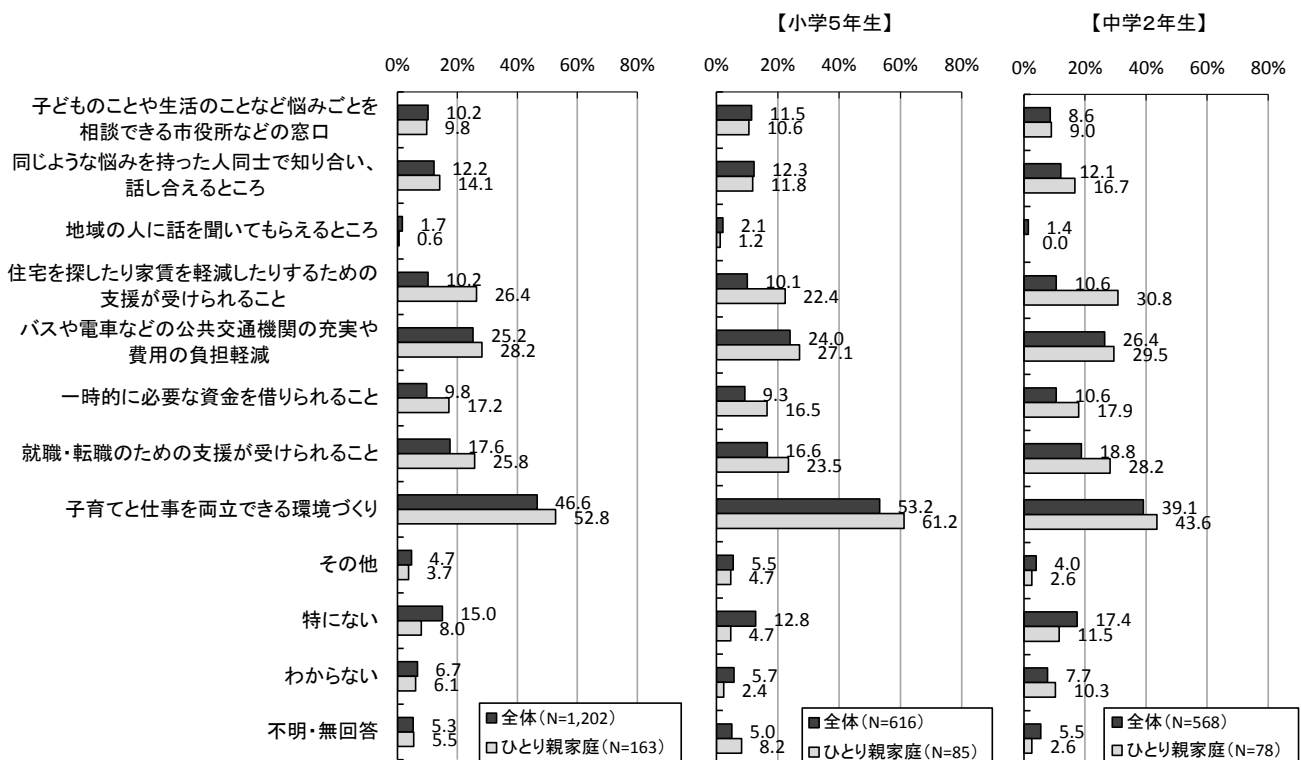
上段:度数 下段:%	保護者が家に いないときに子 どもが安心して 過ごす場所や サービスの提 供	生活や就学 のための経済 的な補助	進路や生活な どについてなん でも相談でき るところ	仲間と出会い、 一緒に自然体 験や集団遊び などいろいろな 活動ができる ところ	夏休み期間中 子どもたちが自 習できる場所	地域において職 場体験ができる ところ
全体 (N=1,202)	384 31.9	632 52.6	304 25.3	341 28.4	554 46.1	312 26.0
両親同居 (N=1,010)	321 31.8	515 51.0	250 24.8	299 29.6	466 46.1	270 26.7
母子世帯 (N=118)	41 34.7	88 74.6	30 25.4	20 16.9	54 45.8	23 19.5
父子世帯 (N=45)	14 31.1	14 31.1	15 33.3	14 31.1	21 46.7	10 22.2
両親なし (N=13)	1 7.7	6 46.2	2 15.4	3 23.1	3 23.1	1 7.7

上段:度数 下段:%	子どものみで無 料もしくは低料 金で食事ができ る場所の提供	その他	特にない	わからない	不明・無回答
全体 (N=1,202)	195 16.2	23 1.9	95 7.9	41 3.4	30 2.5
両親同居 (N=1,010)	155 15.3	21 2.1	86 8.5	33 3.3	24 2.4
母子世帯 (N=118)	27 22.9	1 0.8	3 2.5	4 3.4	2 1.7
父子世帯 (N=45)	5 11.1	1 2.2	3 6.7	3 6.7	2 4.4
両親なし (N=13)	4 30.8	0 0.0	3 23.1	1 7.7	0 0.0

問 E3 あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援などは何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

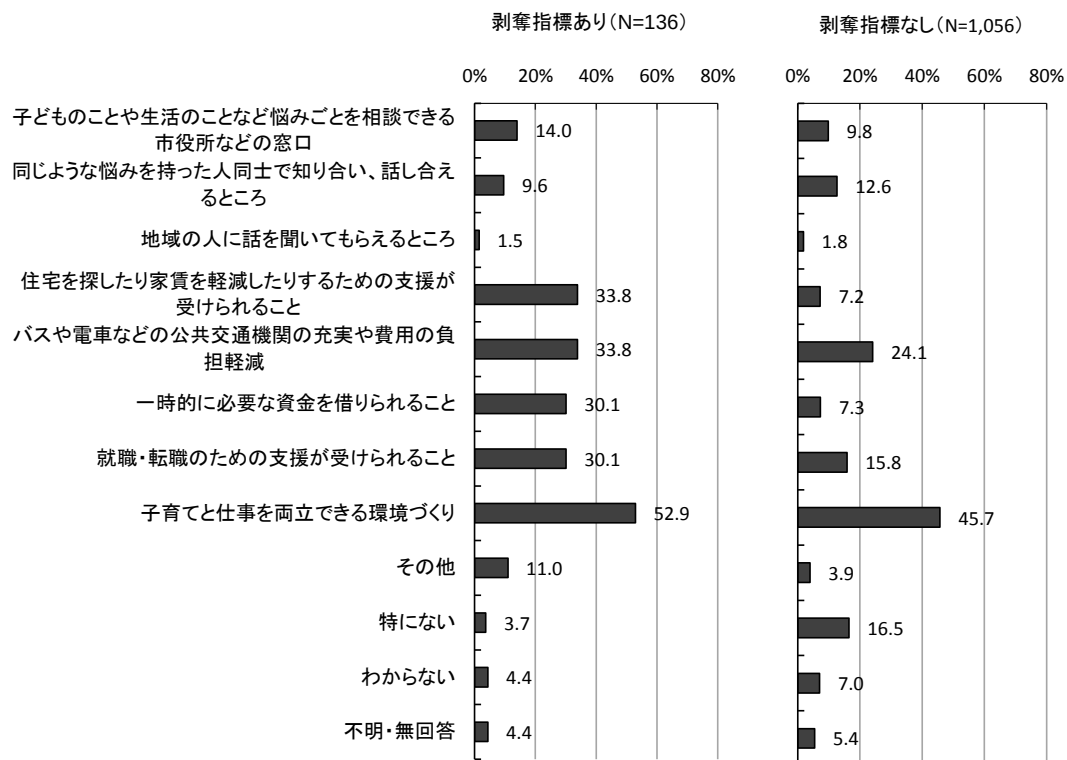
現在、必要または重要だと思う支援をみると、「子育てと仕事を両立できる環境づくり」が 46.6%と最も高く、次いで「バスや電車などの公共交通機関の充実や費用の負担軽減」が 25.2%となっています。

ひとり親家庭をみると、「子育てと仕事を両立できる環境づくり」が 52.8%と最も高く、また、[小学5年生][中学2年生]ともに、「住宅を探したり家賃を軽減したりするための支援が受けられること」の割合が全体と比べて高くなっています。



【クロス集計】問 E3 × 問 D3（剥奪指標の有無別）

剥奪指標の有無別でみると、[剥奪指標あり] では、「住宅を探したり家賃を軽減したりするための支援が受けられること」、「一時的に必要な資金を借りられること」等の割合が[剥奪指標なし] よりも高くなっています。



【クロス集計】問 E3 × 問 A5（両親同居別）

両親同居別でみると、[両親なし] 以外のすべての区分で「子育てと仕事を両立できる環境づくり」の割合が最も高くなっており、[両親なし] では「就職・転職のための支援が受けられること」の割合が最も高くなっています。また、[母子世帯] では、「住宅を探したり家賃を軽減したりするための支援が受けられること」の割合が他の区分と比べて高くなっています。

上段:度数 下段:%	子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できる市役所などの窓口	同じような悩みを持った人同士で知り合い、話し合えるところ	地域の人に話を聞いてもらえるところ	住宅を探したり家賃を軽減したりするための支援が受けられること	バスや電車などの公共交通機関の充実や費用の負担軽減	一時的に必要な資金を借りられること
全体 (N=1,202)	123 10.2	147 12.2	21 1.7	123 10.2	303 25.2	118 9.8
両親同居 (N=1,010)	104 10.3	122 12.1	20 2.0	77 7.6	251 24.9	88 8.7
母子世帯 (N=118)	11 9.3	12 10.2	1 0.8	40 33.9	38 32.2	25 21.2
父子世帯 (N=45)	5 11.1	11 24.4	0 0.0	3 6.7	8 17.8	3 6.7
両親なし (N=13)	1 7.7	1 7.7	0 0.0	2 15.4	2 15.4	1 7.7
上段:度数 下段:%	就職・転職のための支援が受けられること	子育てと仕事を両立できる環境づくり	その他	特になし	わからない	不明・無回答
全体 (N=1,202)	211 17.6	560 46.6	57 4.7	180 15.0	80 6.7	64 5.3
両親同居 (N=1,010)	162 16.0	463 45.8	50 5.0	162 16.0	69 6.8	52 5.1
母子世帯 (N=118)	39 33.1	68 57.6	5 4.2	5 4.2	6 5.1	6 5.1
父子世帯 (N=45)	3 6.7	18 40.0	1 2.2	8 17.8	4 8.9	3 6.7
両親なし (N=13)	5 38.5	2 15.4	1 7.7	4 30.8	0 0.0	0 0.0

問 E4 日々の生活や子育てのなかで、彦根市に対してのご意見をご自由にお書きください。

V. 彦根市 子どもの生活に関するアンケート調査結果のまとめ

● アンケートの回答者について

[回答者の属性について]

○回答者の9割以上が女性かつ母親であり、7割近くが40歳代である。こうした回答者の特性は、子どもや世帯、暮らしの状況等を見ていく上で留意する必要がある。【問 A1、A2、A3】

○回答者の世帯人数は4～5人の世帯が多く、兄弟姉妹と同居している割合が約8割、祖父母と同居している割合が2割弱であり、『保護者、子ども本人、1～2人の兄弟』という世帯構成が多くなっていると思われる。【問 A4】

○合計 163 人の回答者がひとり親家庭に該当し、回答者全体の 13.6%を占めており、多くが母子世帯であることがわかる。【問 A5】

● 子どもの生活状況

[子どもの普段の様子や生活状況について]

○子どもが通っている習い事について、学習塾・進学塾およびスポーツという割合が高く、[小学5年生]ではスポーツ、[中学2年生]では学習塾・進学塾の割合が高い。また、[剥奪指標あり]では塾や習い事をしていないという割合が最も高く、子どもを習いごとに通わせる余裕がない世帯があることがうかがえる。【問 B2】

○過去1年間の旅行やイベントなどの体験について、[剥奪指標あり]ではほかの区分と比較して様々な体験をしている経験が乏しくなっている。【問 B3】

○子どもが朝食を毎日食べる割合について、[剥奪指標あり]では[剥奪指標なし]よりも低く、朝食の欠食状況が見て取れる。一方、夕食を一人で食べている子どもの割合は学年や剥奪指標の有無別に大きな違いがない。ひとり親家庭でも回答者全体と同じような傾向であり、夕食の孤食傾向が特定の世帯に強くみられるということはない。【問 B4、B5】

○平日の子どもの就寝時間について、[小学5年生]より[中学2年生]の方が、就寝時間が決まっていない割合が高く、また、決まっても就寝時間が遅い時間になっており、睡眠の習慣が乱れやすいことがうかがえる。【問 B7】

● 学習・進学への希望

[保護者の学習や進学に関する希望について]

○子どもへの学習支援について、特に、[中学2年生]では学習塾に通うための支援を希望するという割合が高くなっている。また、[剥奪指標あり]では、地域の公民館などで無料もしくは低料金で学習する場を希望する割合が高く、地域での利用しやすい場づくりを求めていることがうかがえる。【問 B8】

○子どもに希望する最終学歴について、全体では大学まで希望する割合が最も高いが、[母子世帯][両親同居なし][剥奪指標あり]では高校までを希望する割合が最も高くなっていることから、経済的な理由で大学への進学を諦めている、もしくは進学への意識が低いことがうかがえる。また、ひとり親家庭でも、[小学5年生]までは大学までを希望する割合が最も高いが、[中学2年生]では高校までを希望する割合が最も高くなっており、子どもが小学校から中学校へ進学する中で保護者の希望が変わっている。【問 B9】

● 世帯の状況

[住居の状況や保護者の日常生活について]

○現在の住まいの状況について、回答者や配偶者の持ち家率が80.4%となる一方、[母子世帯]では本人や配偶者以外の持ち家や民間の賃貸住宅の割合が比較的高くなっている。ひとり親家庭では、[中学2年生]で回答者や配偶者の持ち家率が39.7%と全体と比較して低く、実家や賃貸アパートなどで暮らしている保護者もいると思われる。【問 C1】

○[母子世帯]および[剥奪指標あり]では、住居における落ち着いて勉強できるスペースがないという割合が1割以上となっており、自宅学習に必要な環境が整っていない状況がうかがえる。【問 C-1】

○保護者が朝食を毎日食べる割合について、[剥奪指標あり]では毎日食べている割合が69.1%にとどまり、ほとんど食べないという割合が12.5%となっており、日常的に朝食を食われていない人がいる現状がうかがえる。【問 C2】

○地域との近所づきあいについて、[母子世帯][父子世帯][剥奪指標あり]ではあいさつをする程度の近所づきあいをしかしていない割合が高く、まったく近所づきあいがいい割合もみられるなど、剥奪指標がある世帯やひとり親世帯では保護者が比較的孤立しやすい傾向がうかがえる。【問 C3】

● 保護者の就労状況

[保護者の働き方や就労の状況について]

○父親、母親、両親以外の保護者の働き方についてみると、父親では76.2%が正社員・正規職員、母親では50.5%がパート・アルバイト、両親以外の保護者では43.8%がパート・アルバイトとなっており、父親とそれ以外で就労状況に違いがみられる。【問 C4】

○父親が正社員・正規職員の割合について、[剥奪指標あり]と[剥奪指標なし]の割合には大きな差があり、働き方と剥奪指標との間に関連性がうかがえる。【問 C4】

○母親の働き方について、同居や学年、剥奪状況の有無別で、パート・アルバイトの割合に大きな差はなかったものの、[剥奪指標あり]では働いていないという割合が15.4%と、一定数存在している。現在働いていない母親でも、今後働きたいという割合が40.3%と、就労意欲のある母親も多くなっている。【問 C4】

○ひとり親世帯では、全体と比較して母の帰宅時間が遅く、18~20時までの割合が最も高くなっている。【問 C4-1】

● 暮らしの状況

[世帯の経済状況から断念していることや主観的な経済的な困難さ、暮らし向き等について]

○家庭にない物品について、[母子世帯] では子ども用の携帯電話やスマートフォンを持っていない割合が比較的低く、固定電話を持っていない世帯が比較的高い。[剥奪指標あり] では5万円以上の貯金がない割合が41.9%と、急な出費に対応できない経済状況がうかがえる。子ども用の携帯電話やスマートフォンでは、ひとり親家庭の保有率が全体と比べて高く、また、[剥奪指標なし] よりも[剥奪指標あり]の方が保有率が高い結果となった。一方、特にエアコンと大人用の携帯電話・スマートフォンは、両親同居や学年、剥奪指標の有無別で大きな差はなく、世帯の経済状況に関わらず優先順位の高いものとなっていると思われる。【問 D1】

○[剥奪指標あり] では、学校の諸経費や各種ローン、電気・ガス・水道代、通信料金、公的年金や保険料について、過去1年間で支払いに遅れたことがあるという割合が約2割となっており、健康保険料を支払っていないことで受診や通院を躊躇してしまうなどのリスクも考えられる。また、家賃については、[剥奪指標あり]でも支払いが遅れた割合が低く、優先的に支払っていることがうかがえる。【問 D2】

○経済的な困難さから必要な食品や衣服を買えないことがあったかについて、[母子世帯] では1年間に1回以上あった割合が31.4%となった。また、こうしたことが「よくあった」「ときどきあった」という割合でも21.2%と、母子世帯においては、生活に支障が出るレベルでの経済的な困難さを抱えている人がいることがうかがえる。さらに、[両親同居]でも9.4%が1年間に1回以上あったと回答しており、母子世帯でなくとも、経済的な困難さを抱えている世帯が一定数あることがわかる。【問 D3】

○過去1年間に就学援助を受けている世帯のうち、40.5%の世帯が[剥奪指標あり]となっており、就学援助を受けていても困難な状況があることがうかがえる。【問 D3】

○病院や診療所の受診について、[剥奪指標あり]では、過去1年間に子どもを受診させなかったという割合が41.9%となっており、その理由については医療費の支払いが難しかったためという割合が最も高い。経済的な困難さから子どもが医療機関を受診できていない状況があることが明らかになっている。【問 D4】

○子どもにかかる費用のうち、経済的な負担が大きいものについて、両親同居別、学年別、剥奪指標の有無別等を問わず、学習塾や習い事にかかる費用の割合が最も高く、すべての世帯において通塾が経済的な負担となっていることがうかがえる。また、制服・体操服の購入費や医療費等、子どもにとって不可欠な費用についても、負担であると答えた割合が比較的高くなっている。【問 D5】

○現在のくらしの状況について、『苦しい』と答えた割合は、[小学5年生]より[中学2年生]の方が高く、子どもが成長するにつれて、経済的な負担感が増えていることがうかがえる。また、[剥奪指標あり]では、『苦しい』と答えた割合が93.4%となっており、剥奪指標から経済的な困難さがある世帯では、実感としても生活に苦しさを感じていることがわかる。【問 D6】

● 市の支援について

[手当や援助の受給状況、市に対する支援ニーズについて]

- 公的な手当や援助の受給状況について、児童手当は88.8%の世帯が受けている。それ以外の手当て・援助については、受けていないという割合が最も高くなっている。【問E1】
- [剥奪指標あり]では、就学援助を受けている割合が41.9%、児童扶養手当を受けている割合が25.7%となっており、経済的に困難な世帯やひとり親家庭にとって重要な手当となっている。【問E1】
- 子どもの将来のために必要な支援について、生活・就学のための経済的な補助、夏休み期間中に子どもたちが自習できる場所、保護者がいないときに子どもが過ごせるスペースの順に、割合が高くなっている。【問E2】
- [剥奪指標あり]では、生活・就学のための経済的な補助を求める割合が突出して高く、また、子どものみで食事ができる場所へのニーズも27.2%となっている。これらより、まず生活を安定させるための支援と就学・進学等の子どもが困難な状況から抜け出すために必要な援助が求められており、またこうした援助には、食事などの必要最低限で緊急性の高い支援も含まれていることがうかがえる。【問E2】
- 保護者が必要としている支援について、子育てと仕事の両立の支援や公共交通機関の費用負担軽減など、就労や通勤・通学等に関わると思われるものの割合が高い。また、[母子世帯]では、住宅への支援の割合が高くなっているほか、就職・転職支援の割合も高く、就労条件等の改善が求められていることがうかがえる。【問E3】

■ 参考：生活保護等受給世帯に属する児童・生徒数（小学5年生・中学2年生）

	小学5年生	中学2年生	備考
① 生活保護	11人	11人	
② 児童扶養手当	76人	111人	①を含む。
③ 就学援助	140人	195人	①②を含む。